

4. 先進的な取組の紹介・官民のまちづくり関係者の連携促進の場の企画・運営による知見の収集・データの整理

4-1 イベントの企画・運営

先進的なまちづくりに取り組む官民連携によるエリアプラットフォームや都市再生推進法人等の民間のまちづくり団体が、実践から得た知見や課題等を紹介し、官民のまちづくり関係者が相互に情報共有・連携を促進する場として、オンラインでの配信イベントを企画し、運営等を行った。

4-1-1 イベント実施概要

昨年度に引き続き、国土交通省と全国エリアマネジメントネットワークの共催によるイベント「官民連携まちづくりDAY2022」を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、オンラインで開催した。登壇者の講演とトークセッションにより、参加者がまちづくりに関する知見や最新の取組に関する情報を収集し、ともに議論できる場として、下記のとおり実施した。

表 4-1 イベント概要

開催日時	令和4年2月14日（月）14:00～17:00
会場	Green House 敬の間（デロイトトーマツ社内）より配信
開催方式	オンライン配信（Zoom） ※登壇者は明記がない限り、会場に参集。
次第	1. オープニングトーク 目的の発信など 2. インプットトーク① 地域ビジョン策定とその後のプロセス（事前収録） 3. セッション① テーマ：「地域ビジョンのつくり方」 4. 休憩 5. インプットトーク② ニューノーマル時代のまちづくりに求められるもの 6. セッション② テーマ：「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」 7. 総括 8. 創設された制度活用に関する情報発信 9. クロージングトーク

4-1-2 イベントの実施目的

主催者である国土交通省 都市局、全国エリアマネジメントネットワーク、及び受託者により協議を行い、昨今のコロナ禍によりまちづくりに関して重要視されていた、対面でのコミュニティ形成が困難になっている中、アフターコロナを見据えた未来志向のまちづくりの可能性について共有できるような企画について検討を行った。

主に以下3点を目的とし、各プログラムの検討・策定を行った。

- ① 全国の都市/地域において、ウォークアブル推進（歩きたくなる居心地の良い空間形成への取組）を促進させるため、活用可能な制度及び支援施策への理解醸成・活用機運の向上を図る。
- ② 先駆的に取組まれている地域事例を介して、他地域の今後のまちづくり活動の気付き・モチベーション向上に寄与するような情報交換・ネットワーキングを図る。
- ③ 先駆的に取組まれている地域の地方公共団体担当者及び実践者にイベントに参加いただき、先駆的な事例の中で抱える課題に対して、今後の制度がどうあるべきかについて認識共有の機会を創出する。（例：運用方法、制度の拡張可能性など）

4-1-3 各プログラムのテーマ

イベントの実施目的を踏まえ、主要なプログラムであるインプットトーク①、セッション①、インプットトーク②、セッション②は、それぞれ下記のテーマを設定し、詳細な内容の検討を行った。

■ インプットトーク①：地域ビジョン策定とその後のプロセス

まちづくりによって目指す羅針盤となる地域ビジョンを、官と民で共有することの重要性について、発信することとした。本プログラムではビジョン策定とビジョンに基づく実践、ビジョンの見直しを継続している実践地域でのケースについて紹介することとした。

■ セッション①：地域ビジョンのつくり方

包括的な視点により地域ビジョンを策定し、地域に関わる多様なステークホルダーとの協業関係の構築と、実践に向けた合意形成を図ることは、まちづくりの機運を占う重要なプロセスになると考えられる。

掲げた地域ビジョンを踏まえた実践が展開されている地域の実践者を登壇者とし、各地域や組織による地域ビジョン策定のプロセスと、策定後の取組や最新の状況について、トークセッション形式で議論することとした。

セッションでは、参加者の疑問にもこたえられるよう事前に受け付けた質問に対して、登壇者がこたえる時間を設定した。

■ インプットトーク②：ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものとは？

現状、実践段階での取組の実例が稀有であると考えられる中、今後、追い求めていくべきであると考えられるような重要な要素について、共有する機会とした。

ニューノーマル時代におけるまちづくりでは何ができるのか、また、変わるものや新たな可能性について問題提起を行うことで、参加者が今後の実践で自問自答できるような内容について発信することとした。

■ セッション②：ニューノーマル時代に求められる空間と機能

コロナ禍においては、これまで各地で重要視されていた、人と人や、人と空間がフィジカルに繋がることに対して、一定の制限がかかっている。今後のニューノーマル時代における空間に対して、各地域で対面する現状や今後見出すべき価値については、様々な背景や考え方があると考えられる。

本プログラムにおいては、具体的に、フィジカルとサイバーそれぞれにおいて、空間がどのように関連していくことができるのか、また、地域ビジョン策定後の実践として、こういったアクションが今後展開されたら魅力的な地域につながるのかなどについて、未来志向の議論をトークセッション形式にて意見を重ねることとした。

セッション①と同じく、参加者から事前に受け付けた質問に対して、登壇者がこたえる時間を設定した。

4-1-4 プログラムの詳細

イベントプログラムやタイムテーブル、登壇者などの詳細を次頁のとおり示す。

表 4-2 タイムスケジュール

時間	内容	登壇者
13:30	開場（Zoom 入室）	
14:00	開会	国土交通省 都市局 まちづくり推進課 専門官 椎名 大介 氏
14:00 ～14:05	1. オープニングトーク （事前収録） ➤ 目的の発信など	国土交通省 都市局 局長 宇野 善昌 氏 ※事前収録で実施
14:05 ～14:35	2. インプットトーク① （事前収録） ➤ 地域ビジョン策定と その後のプロセス	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 研究科長・教授 出口 敦 氏 ※事前収録で実施
14:35 ～15:20	3. セッション① ➤ テーマ：「地域ビジ ョンのつくり方」	ファシリテーター：（有）ハートビートプラン 園田 聡 氏 登壇者： ① 三菱地所（株） / （一社）大丸有まちづくり協議会 重松 眞理子氏 ② 錦二丁目エリアマネジメント（株） 名畑 恵 氏 ③ カミハチキテル事務局 / （一社）地域価値共創センター 山中 佑太 氏 ④ （一社）前橋デザインコミッション 日下田 伸 氏
15:20 ～15:30	4. 休憩	
15:30 ～15:55	5. インプットトーク② ➤ ニューノーマル時代 のまちづくりに求めら れるもの	三菱地所（株） / （一社）大丸有まちづくり協議会 重松 眞理子 氏
15:55 ～16:40	6. セッション② ➤ テーマ：「ニューノ ーマル時代に求められ る空間と機能」	ファシリテーター：（有）ハートビートプラン 園田 聡 氏 登壇者： ① 三菱地所（株） / （一社）大丸有まちづくり協議会 重松 眞理子 氏 ② 錦二丁目エリアマネジメント（株） 名畑 恵 氏 ③ カミハチキテル事務局 / （一社）地域価値共創センター 山中 佑太 氏 ④ （一社）前橋デザインコミッション 日下田 伸 氏
16:40 ～16:50	7. 総括	全国エリアマネジメントネットワーク 事務局次長 長谷川 隆三 氏
16:50 ～16:55	8. 創設された制度活 用に関する情報発信	国土交通省 都市局 まちづくり推進課 専門官 椎名 大介 氏
16:55 ～17:00	9. クロージングトーク （オンライン参加）	全国エリアマネジメントネットワーク 会長 小林 重敬 氏 ※オンラインで参加
17:00	終了/アンケート配信	

4-1-5 登壇者

イベントの実施目的や各プログラムのテーマや、昨年度の「官民連携まちづくり DAY2021」の実施の経緯を踏まえ、関連する実務経験が豊富な方を各プログラムの登壇者に選定した。

インプットトーク①の登壇者は、学識者としての多くの地域のビジョン策定に関与した実績のある出口敦氏とした。インプットトーク②登壇者は、本テーマを「ニューノーマル時代のまちづくりに求められるもの」としたこと、大手町・丸の内・有楽町地区において、ビジョンにもとづくまちづくりの実践やスマートシティの取組を推進する重松真理子氏とした。

セッション①・②の登壇者には、昨年度実施した「官民連携まちづくり DAY2021」の登壇者に再度登壇いただくことで、視聴者がこの1年間の取組の継続や変化を継続的に確認できることを狙った。

各登壇者の情報は以下のとおりである。

表 4-3 登壇者一覧

#	写真	所属・役職・氏名・	プロフィール
1		東京大学大学院 新領域創成科学研究科 研究科長・教授 出口 敦 氏	東京大学工学部都市工学科卒業、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）。専門分野は都市計画学、都市デザイン学。東京大学や九州大学を経て2011年より現職。公益社団法人日本都市計画学会会長、柏の葉アーバンデザインセンターセンター長、柏の葉スマートシティコンソーシアム統括コーディネーター、（一社）UDC イニシアチブ代表理事等を務める。
2		（一社）大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 都市政策部会長 兼 スマートシティ推進委員会委員長 三菱地所（株） 都市計画企画部 兼 スマートエネルギーデザイン部 ユニットリーダー 重松 真理子 氏	都市開発制度、エリアマネジメント等、公民協調による取組を推進。近年、NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）事務局として丸の内仲通り等における道路空間活用に携わったほか、エリア内のイノベーションエコシステムの形成促進に向けた取組の立上、スマートシティの推進に取り組んでいる。
3		（有）ハートビートプラン 取締役 園田 聡 氏	2009年工学院大学大学院修士課程修了。商業系企画・デザイン会社勤務を経て、2015年同大学院博士課程修了。博士（工学）。2016年より有限会社ハートビートプラン。専門は都市デザイン、プレイスメイキング。大阪・東京を拠点に全国各地でプレイスメイキングの理念・手法を用いた実践・研究に取り組んでいる。
4		錦二丁目エリアマネジメント（株） 代表取締役 名畑 恵 氏	名古屋長者町・錦二丁目地区の町内会・まちづくり団体をはじめとする地縁組織が立ち上げたまちづくり事業会社。公共空間活用や拠点開設（2022年春）等、地域主体で策定したまちづくり構想を元に事業推進を行う。都市再生推進法人を経営。
5		（一社）地域価値共創センター 理事 カミハチキテル事務局 山中 佑太 氏	紙屋町・八丁堀地区からコンテンツリード型の都心づくりに取り組む。「カミハチミライデザイン ver0.5」では2045年の都市像として「プロトタイプシティ（世界課題解決都市群）」を掲げ、相生通りのトランジットパーク化を目指した取組を推進。
6		（一社）前橋デザインミッション 企画局長兼事務局長 日下田 伸 氏	中心市街地まちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」の推進のため19年に民間会費で発足。県外者ながら、事務/企画局長として実質的立ち上げから従事。21年先進的まちづくり大賞国土交通大臣受賞。

4-1-6 開催告知方法

開催にあたり、案内チラシの作成、事務局が運営する note（記事を掲載できる SNS サービス）の開設、官民連携まちづくりポータルサイトの YouTube イベントのチャンネルでの事前動画の公開により、周知・参加者の募集を行った。

4-1-6-1 案内チラシの作成

チラシを作成し、国土交通省 HP や全国エリアマネジメントネットワークの Facebook に掲載、国土交通省都市局のメーリングリストで発信するなどして周知を行った。完成したチラシは次頁以降のとおりである。

図 4-1 告知チラシ表面

官民連携
まちづくりDAY 2022

オンライン開催

質問受付中

皆様のまちづくりの質問を募集します 詳細は裏面へ!

2022.2/14[月] 14:00-17:00

参加無料
事前申込制

第1部

インプットトーク①
地域ビジョン策定と
その後のプロセス(事前収録)

登壇者
東京大学大学院
新領域創成科学研究科
出口 敦教授

第2部

インプットトーク②
ニューノーマル時代における
まちづくりに求められるものとは?

登壇者
(一社)大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
都市計画部会長 兼 スマートシティ推進委員会委員長
三菱地所(株) 都市計画企画部 兼 スマートエネルギー
デザイン部 ユニットリーダー
重松 眞理子氏

国土交通省 × 全国エリマネ

図 4-2 告知チラシ裏面

官民連携 まちづくりDAY

2022

コロナ禍においては、都市生活や都市活動だけでなく、私たちの意識・価値観も大きく変化しています。ニューノーマル時代において、まちづくりは何を目指すべきか……。羅針盤となる地域ビジョンのつくり方・実行に向けたポイントについて考える機会として、全国の取組状況の共有や参加者の皆さまから事前にいただいたトピックに関する実践者の対話を通じて、一緒に考えてみませんか？

ニューノーマル時代のまちづくりとビジョニング

プログラム

第1部

14:00 オープニングトーク
インプットトーク①
地域ビジョン策定とその後のプロセス (事前収録)

15:00 セッション①
地域ビジョンのつくり方
重松氏とまちづくりの実践者の皆さんと一緒に進めます。

第2部

16:00 インプットトーク②
ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものは？

セッション②
ニューノーマル時代に求められる空間と機能
重松氏とまちづくりの実践者の皆さんと一緒に進めます。

総括タイム
創設された制度活用に関する情報発信

17:00 クロージングトーク

東京大学大学院新領域創成科学研究科
出口 敦教授

東京大学工学部都市工学科卒業、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(工学博士)。専門分野は都市計画学、都市デザイン学。東京大学や九州大学を経て2011年より現職。公益社団法人日本都市計画学会会長、柏の葉アーバンデザインセンターセンター長、柏の葉スマートシティコンソーシアム統括コーディネーター、(一社)UDCイニシアチブ代表理事等を務める。

(一社)大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
都市政策部会長 兼 スマートシティ推進委員会委員長
三愛地産(株) 都市計画企画課 兼 スマートエネルギーデザイン部 ユニットリーダー
重松 眞理子氏

都市開発制度、エリアマネジメント等、公民協調による取組を推進。近年、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会(リガール)事務局として丸の内通り等における道路空間活用に携わったほか、エリア内のイノベーションエコシステムの形成促進に向けた取組の立上、スマートシティの推進に取り組んでいる。

ファシリテーター

(有)ハートビートプラン 取締役
園田 聡氏

全国各地でプレイスメイキングの理念・手法を用いた実践・研究に取り組む。都市デザイン事務所。

まちづくりの実践者

錦三丁目エリアマネジメント(株) 代表取締役
名畑 恵氏

地縁組織が立ち上げたまちづくり事業会社。地域主体で策定したまちづくり構想を元に事業推進を行う。

まちづくりの実践者

カミハチキテル事務局 (一社)地域価値共創センター 理事
山中 佑太氏

2045年の広島市の都市像「プロトタイプシティ」を掲げ、コンテンツ/リード型の都市再生に向けた事業を展開。

まちづくりの実践者

(一社)官機デザインコミッション 企画部長兼事務局局長
日下田 伸氏

中心市街地まちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」の推進のため2019年に民間会費で発足。

お申込先

QRコード、もしくは下記URL
よりお申し込みください。 締切日 **2022.2/9 (水)**
<https://forms.office.com/r/73yTNqGxth>

質問受付先

QRコード、もしくは下記URL
よりお申し込みください。 締切日 **2022.1/31 (月)**
<https://forms.office.com/r/aQemLBPcbT>

セッション①・②(地域ビジョンのつくり方、ニューノーマル時代に求められる空間と機能)に関して、それぞれご質問を受け付けます！

お問合せ先：官民連携まちづくりDAY 2022 事務局 有限責任監査法人トーマツ メール：kanmin-machi@tohatsu.co.jp 担当：西村・大庭・原田

4-1-6-2 note、及び YouTube 運営

イベントの実施前後に参加者と継続的にコミュニケーションをとるため、記事を投稿し公開できる SNS サービスである note に、事務局のアカウントを開設し、イベント開催情報、登壇者紹介、イベントレポート等、計 6 本の記事を公開した。

また、出口敦氏の事前収録映像の一部を YouTube 特別映像とし、官民連携まちづくりポータルサイトの YouTube チャンネル上で公開した。

発信内容は次以下のとおりである。

表 4-4 イベント開催告知などの note 投稿記事及び事前配信動画一覧

#	内容	公開日	URL	図表番号
1	アカウント開設	令和 3 年 12 月 22 日(水)	https://note.com/kanmin_machi	図 4-3,4,5
2	イベント PR 記事	令和 3 年 12 月 22 日(水)	https://note.com/kanmin_machi/n/n98d91796a04c	図 4-6
3	登壇者取組紹介記事① 前橋デザインコミッション 日下田氏	令和 4 年 1 月 13 日(木)	https://note.com/kanmin_machi/n/n4513974f94ed	図 4-7
4	登壇者取組紹介記事② カミハチキテル 山中氏	令和 4 年 1 月 20 日(木)	https://note.com/kanmin_machi/n/n42a78a35b371	図 4-8
5	登壇者取組紹介記事③ 錦 2 丁目エリアマネジメント 名畑氏	令和 4 年 1 月 24 日(木)	https://note.com/kanmin_machi/n/n34baa5a534ea	図 4-9
6	登壇者取組紹介記事④ ハートビートプラン 園田氏	令和 4 年 1 月 27 日(木)	https://note.com/kanmin_machi/n/n1be3788d417f	図 4-10
7	事前動画公開の紹介記事 東京大学大学院 出口氏	令和 4 年 2 月 8 日(火)	https://note.com/kanmin_machi/n/n8f9a0881348c	図 4-11
8	事前動画 東京大学大学院 出口氏	令和 4 年 2 月 7 日(月)	https://www.youtube.com/watch?v=rs_duyyhBbQ	図 4-12

図 4-3 ヘッダー画像（全告知記事共通）



図 4-4 参加申込方法の案内（全告知記事共通）

参加申込方法 当イベントは、事前申し込み制です。 お手数ですが、2022年2月9日（水）までにお申込をお願いします！ お申込先 https://forms.office.com/r/73yTNqGxtH  ご質問も募集中！ セッション①（地域ビジョンのつくり方）、セッション②（ニューノーマル時代に求められる空間と機能）に関して、それぞれご質問を受け付けています！ 皆さまの抱える疑問を全国で取組推進をしている登壇者の皆さんと一緒に考えてみませんか？ 参加申込をお済ませの上、2022年1月31日（月）までにお寄せください！	質問受付先 https://forms.office.com/r/aQemLBPcbT  ※必ず、参加申込を済ませてからご入力ください。 本noteアカウントでは、今後もイベントに関する情報を発信いたします。 皆さまのイベントへのお申込とご質問、お待ちしております。 お問合せ先 官民連携まちづくりDAY 2022 事務局 有限責任監査法人トーマツ メール：kanmin-machi@tohatsu.co.jp 担当：西村・大庭・原田
--	---

図 4-5 note アカウント表示画面



図 4-6 開催告知 note 記事

イベント「官民連携まちづくりDAY2022 ～ニューノーマル時代のまちづくりとビ ジョニング～」がオンライン開催決定！

♡ 28



官民連携まちづくりDAY 2022事務局
2021年12月22日 15:38



こんにちは！官民連携まちづくりDAY 2022事務局です。

例年、国土交通省と全国エリアマネジメントネットワークが開催しております、当イベントの開催が決定しました！今年は昨年度に続き、**オンラインでの開催**をいたします。（国土交通省HP [報道発表資料](#)）

参加申込は[コチラ](#)

本noteアカウントでは、1月中旬に全4回にわたり登壇者のご紹介などいたします。アカウントをフォローの上、ぜひチェックしてみてくださいね！

では早速、イベント内容をご紹介します。

イベント概要

①イベントのコンセプトメッセージ

コロナ禍においては、都市生活や都市活動だけでなく、**私たちの意識・価値観も大きく変化**しています。

ニューノーマル時代において、まちづくりは何を目指すべきか……。羅針盤となる**地域ビジョンのつくり方・実行に向けたポイント**について考える機会として、全国の取組状況の共有や**参加者の皆さまから事前にいただいたトピックに関する実践者の対話**を通じて、一緒に考えてみませんか？

昨年のイベントに引き続き、長期化するコロナ禍において、地域のまちづくりの中でどのようなビジョニング・実践に向けたアプローチが求められているのか参加者の皆さんと一緒に考えていきます。

皆さんの質問を元にパネリストの皆さんと議論を展開していきます！

②ご登壇者&プログラム

国内の先駆的な取組を推進している皆さまに、2つのセッションに分けてお話をいただきます。

第1部：地域ビジョンの策定とその後のプロセス/地域ビジョンの作り方

14:00 オープニングトーク
インプットトーク①
地域ビジョン策定とその後のプロセス（事前収録）

15:00 セッション①
地域ビジョンのつくり方
重松氏とまちづくりの実践者の皆さんと一緒に進みます。

第1部

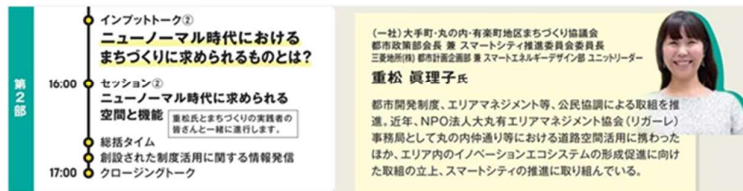
東京大学大学院新領域創成科学研究科
出口 敦教授
東京大学工学部都市工学科卒業、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）。専門分野は都市計画学、都市デザイン学。東京大学や九州大学を経て2011年より現職。公益社団法人日本都市計画学会会長、柏の葉アーバンデザインセンターセンター長、柏の葉スマートシティコンソーシアム統括コーディネータ、（一社）UDCイニシアチブ代表理事等を務める。

東京大学大学院で都市計画学や都市デザイン学を専門に研究されている、出口教授にご講演（事前収録）をいただきます！その後は、地域ビジョンの作り方について、全国の実践者の皆さん+重松さん（下部でご紹介）によるトークセッションを行います。



※トークセッション参加メンバーの取組は、本noteで2022年1月より順次公開予定です。楽しみに！

第2部：ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものとは？/ニューノーマル時代に求められる空間と機能



(一社)大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会や三菱地所(株)にて、まちづくりやスマートシティ事業に取り組まれている、重松さんにご講演いただきます！ご講演後は、セッション①と同じように地域ビジョンの作り方について、全国の実践者の皆さん+重松さんにて、トークセッションを行います。

図 4-7 登壇者紹介①日下田氏 note 記事

官民連携まちづくりDAY2022〔登壇者紹介①〕日下田 伸さん（(一社)前橋デザインコミッション 企画局長兼事務局長）

♡ 15



官民連携まちづくりDAY 2022事務局
2022年1月13日 16:46



こんにちは！官民連携まちづくりDAY 2022事務局です。

2022年2月14日（月）に国土交通省と全国エリアマネジメントネットワークが開催する当イベントの、トークセッション登壇者と、まちづくりの取組を全4回に渡ってご紹介します。



参加申込は[コチラ](#)

第一弾は、一般社団法人前橋デザインコミッション 企画局長兼事務局長の**日下田 伸さん**です！早速、お取組からご紹介いたします。

(一社)前橋デザインコミッション (MDC) の設立経緯

群馬県前橋市で、民間主体によるまちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」の推進母体として2019年11月1日、民間会費により発足しました。前橋市が官民連携によって策定した前橋ビジョン「めぶく。」の機会創出や支援などを行っています。日下田さんは県外者ながら、事務/企画局長として実質的には立ち上げから取組に参画しており、現在も取組の中心となっており活躍されています。

当法人は、群馬県前橋市を拠点とし、民間の強みを活かしたまちづくりを推進することで、新しい価値を創造し、にぎわいと魅力あふれる中心市街地並びに「デザイン都市まえばし」を実現することを目的とする。

大きな時代の変化、 前橋ならではの可能性、 暮らす人が幸せになる街を

都市再生特別措置法に基づき、「まちづくり」の豊富な情報やノウハウを有し、運営体制が充実していることが認められたのが「都市再生推進法人」です。
前橋市アーバンデザイン（市民主体のまちづくり）の旗振り役として、
1. そのビジョンを広く多くの方々と共有することための場づくりを行うこと、
2. 市民をはじめとした住民たちの主体的アクションを促すサポートすること、
この二つの軸に民間会員による民間主体のまちづくり組織として、前橋アーバンデザインエリア158haを対象としたエリアマネジメントを積極的に行っています。



MDCの取組と目的（同社HPより）

MDCの主な取組

MDCは「前橋市アーバンデザイン」の推進母体として都市再生推進法人の指定を受けており、都市利便増進協定やウォーカブル事業、国内初のまちづくりSIB事業等を組合せたハード・ソフト連動の街路整備やレンガ文化の復活、各種ワークショップ等の開催など様々な取組を行っています。
2020年には前橋市とMDCの「前橋市アーバンデザインの策定とその後の民間主体のまちづくり」が第2回先進的まちづくり大賞の最高賞である、国土交通大臣賞を受賞するなど、取組成果は全国的にも高い注目を集めています。

中心市街地の目指すべき将来像について、市民の思いを市民中心に議論し、まちづくりのビジョンの作成と共有、民間主体のまちづくりを推進するための指針（アーバンデザイン）を市の既定の計画に位置付けなおす手法や、それらを比較的短期間で達成した点は先進性や独自性が高い。また、民間が主体的に関わる小規模なアクションを展開していく組織や、構成企業の利益の一部をまちづくりに寄付していく団体の存在等、取組の端緒ではあるものの今後の展開が期待されることが高く評価されました。



前橋市アーバンデザインの選定理由（同社note記事より）

「馬場川通りアーバンデザインプロジェクト」や「前橋レンガ・プロジェクト」など、実践的なまちづくり事業に取り組んでいます。子どもを中心とした参加型企画イベントなどを展開しています。

ユニークな企画や住民参画を促す取組、官民連携による資金調達活動などを展開しており、様々メディアからも取り上げられています。

「馬場川通りアーバンデザインプロジェクト」とは、市街地中心部にある馬場川通り遊歩道公園（約200m）において、民間資金により公共空間をリニューアルするプロジェクトです。市内の企業・企業家有志による民間団体「太陽の会」からの3億円の寄付金を基に、MDCが幹事となり改修工事を進め、完成後に前橋市に寄贈するというスキーム。



馬場川パーク（社会実験）の様子（同社note記事より）

「前橋レンガ・プロジェクト」では、市中心市街地を流れる広瀬川河畔の歩道整備に際し、官民連携で取組を推進しています。敷設するレンガへ、1個3,000円を寄付した方の名前を刻印する取組など、住民理解や連携を深めながら、取組を進めています。

前橋市中心市街地の広瀬川河畔では、前橋市アーバンデザインのデザインモチーフであるレンガを用いた歩道整備をしています。今回、官民連携の取り組みとして、レンガの街並みや産業育成、文化創造にチャレンジした「前橋レンガ・プロジェクト」をスタート。その第1章として、文学館周辺にお名前を刻んだレンガを敷設します。



「前橋レンガプロジェクト」レンガ施工体験の様子（[同社note記事](#)より）

登壇者のご紹介

(一社)前橋デザイン Kommission

企画局長兼事務局長 日下田 伸さん



東京生まれながら中学時代に一家で屋久島に移住したことで、環境と地域社会に関心を抱き筑波大学で農学を学ぶ。清水建設、星野リゾート等での経験を活かし事業再生を手掛けてきた。東日本震災を機に、住まいを都内から父の出身地である栃木に移して、宇都宮に自宅をおきつつ、全国の社会問題に高い関心を持っている。事務/企画局長として実質始動からMDCに従事し、21年先進的まちづくり大賞国土交通大臣受賞。筑波大学卒、日本大学修士修了（開発経済学）、宇都宮大学博士課程（工学）在籍。

まちづくりQ&A

日下田さんがまちづくりの取組を行う際のポイントなどをいくつかご回答いただきました。

Q.まちの自慢を教えてください！

A.幕末に民間で前橋城を再建するなど官民連携の長い歴史があることです。

Q.まちづくりの取組を進める際、重視している事柄はありますか？

A.まちづくりはたくさんのチャレンジの集合体によるものであり、MDCがまちづくりを行う訳ではありません。MDCはチャレンジャーを生み出すこととその支援が役割だと考えています。

Q.地域ビジョンを策定するうえでのご苦労やエピソードを教えてください。

A. MDCは「ビジョン策定」はしておらず、前橋（全市）地域ビジョン「めぶく。」に連なる中心市街地のまちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」を推進する役割を担っています。

Q.コロナ前後で感じる、都市空間や人々の居場所の変化や、地域の状況について教えてください。

A.コロナ禍に入っていた2020年5月からヨソモノとして前橋に関わっていますので、コロナ以前の前橋を知りませんが、一般的な飲食店やイベントへの影響を除けば「そんなに変わらないよ」という市民の声を聞きます。「シャッター街」と言われながら長年無くなりまちの強さが、コロナ禍への耐性（resilience）をすでに備えていたのだと思います。アーバンデザイン自体が新様式的要素を先取りしていたものであり、「コロナ前後」のような短期トレンドに捕らわれない長期的まちづくりの姿勢が大切だと考えています。

Q.最後に、本イベントへの意気込みや期待していることなどをお聞かせください。

A.まちづくりビギナーとしてたくさん学びたいと思います。

日下田さん、ありがとうございました！イベント当日のお話も、ぜひ楽しみに。

次回は、来週に別の登壇者の方のご紹介を予定しています。ぜひチェックしてくださいね。

図 4-8 登壇者紹介②山中氏 note 記事

官民連携まちづくりDAY2022〔登壇者紹介②〕山中 佑太さん（カミハチキテル事務局/(一社)地域価値共創センター）

♡ 12

官民連携まちづくりDAY 2022事務局
2022年1月20日 16:37



こんにちは！官民連携まちづくりDAY 2022事務局です。

2022年2月14日（月）に国土交通省と全国エリアマネジメントネットワークが開催する当イベントの、トークセッション登壇者と、まちづくりの取組を全4回に渡ってご紹介します。

 ファシリテーター	 まちづくりの実践者	 まちづくりの実践者	 まちづくりの実践者
(有)ハートビートプラン 取締役 園田 聡 氏 全国各地でプレイスメイキングの理念・手法を用いた実践・研究に取り組む。都市デザイン事務所。	第二丁目エリアマネジメント(株) 代表取締役 名畑 恵 氏 地縁組織が立ち上げたまちづくり事業会社。地域主体で策定したまちづくり構想を元に事業推進を行う。	カミハチキテル事務局 (一社)地域価値共創センター理事 山中 佑太 氏 2045年の広島の都市像「プロトタイプシティ」を掲げ、コテンツリート型の都市再生に向けた事業を展開。	(一社)前橋デザインコミッション 企画局長兼事務局局長 日下 伸 氏 中心市街地まちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」の推進のため2019年に民間会費で発足。

参加申込は[コチラ](#)

第二弾は、カミハチキテル事務局/(一社)地域価値共創センター 理事の**山中 佑太さん**です！早速、お取組からご紹介いたします。

(一社)地域価値共創センターの主な取組

山中さんは、(株)荒谷建設コンサルタントが立ち上げ、主に中四国地方を中心に地域デザインなどを手掛けている(一社)地域価値共創センターの理事として、「カミハチキテル」のプロジェクトを推進しています。



紙屋町八丁堀エリアマネジメント実践勉強会（2019年-現在）

事務局・ビジョン検討・視察コーディネートを担当。勉強会から派生した紙屋町八丁堀公共空間活用社会実験「カミハチキテル」の企画運営を推進、資金調達、資金拠出、デザイナー、広報ディレクターとともにチームビルディングからプロジェクトマネジメントに至るまでのトータル・ディレクションを行った。

#カミハチキテル
URBAN TRANSIT BAY



全国エリアマネジメントネットワークシンポジウム2018 in Hiroshima (2018)

広島都心部でのエリアマネジメントの機運を高めるため、まちづくり関係の4団体、行政、経済団体をまとめた実行委員会を設立し、事務局を担当。同シンポジウムとして過去最多の604名が参加。



福山駅前等歩道空間活用社会実験

「OPEN STREET FUKUYAMA」(2017)

福山駅周辺地区5箇所で実施した公共空間活用社会実験を企画支援。社会実験の企画立案、その後のエリアマネジメントの推進方策の検討し、翌年度以降は地域で自走した形で実験を継続。



(一社)地域価値共創センターの実績（同社HPより）

「カミハチキテル」と取組地域

中四国地方最大の繁華街で広島都心である、広島市中区の紙屋町・八丁堀地区にてコンテンツリード型の都心づくりに取り組んでおり、「カミハチキテル」を掲げ、2019年から様々な実証実験や取組を展開しています。



「カミハチミライデザインver0.5」では2045年の都市像として「プロトタイプシティ（世界課題解決都市群）」を掲げ、相生通りのトランジットパーク化を目指しています。

また、広島都心の将来を考える産官学30団体から成るまちづくりプラットフォームを形成し、「社会実験カミハチキテル」を2020年、2021年春に実施するなど「広島都心にひとのための居場所・プレイス」づくりに取り組んでいます。

2021年の舞台は「広場」！！会場となる基町クレドふれあい広場のあらゆる場所に、イタリア製の高質な人工芝、ベルギー製のストリートファニチャーが設置され、広島都心で一番くつろげる場所への転換を目指します！



カミハチキテル第2弾 基町クレドふれあい広場（同事務局HPより）

デザイン性が高い空間設計や、多くの企業・団体や市民と連携した取組は様々なメディアに取り上げられています。

山中さんが実行委員会事務局のディレクターとして参画した「公共空間活用社会実験 [カミハチキテル - URBAN TRANSIT BAY -]」では、2020年の公共の建築・空間の分類がグッドデザイン賞を受賞するなど、広島に留まらず、全国的に話題を集めています。

社会実験名称は「#カミハチキテル -URBAN TRANSIT BAY-」。紙屋町・八丁堀地区を一体的に表現した「カミハチ」。そして、そのカミハチに「来てる

（もうそこに居る）」し、カミハチって「キテルよね（いい感じだよ）」という意味を込めて名付けました。そして、カミハチの場所性を表す交差点とコミュニケーション象徴でもある#（ハッシュタグ）から造形したアイコンを組み合わせたロゴマークになっています。また、空間としての意図を補足するため、URBAN（都市で）TRANSIT（ひとびとが気持ちやアクティビティを切り替える）BAY（バスベイ・トラックベイ・タクシーベイ）を添えています。



「#カミハチキテル -URBAN TRANSIT BAY-」のイメージ（同事務局HPより）

登壇者のご紹介

カミハチキテル事務局/(一社)地域価値共創センター

理事 山中 佑太さん



広島のまちづくりに関わりたいと考え、子どもの頃に抱いた夢を叶えるため、広島へ戻ることを前提に進学を機に上京し、不動産や都市計画を学ぶ。2016年、30歳を節目に都市計画コンサルタントとして広島へのUターンを決意。2019年からはカミハチキテル事務局/(一社)地域価値共創センター 理事として活動している。ライフワークでも地域活性化のための活動を行っている。

まちづくりQ&A

山中さんがまちづくりの取組を行う際のポイントなどをいくつかご回答いただきました。

Q.まちの自慢を教えてください！

A.広島は7本の川が流れるデルタを山々が囲む、非常にコンパクトな都市です。その都心に位置するカミハチ（紙屋町八丁堀地区）は平和記念公園や広島城、平和大通りなどの豊かな自然に囲まれながらも、路面電車が走るメインストリート、相生通りや旧西国街道に沿って発達した本通りに業務商業機能が集積しており、多くのひとが訪れる求心力の高いエリアとなっています。

Q.まちづくりの取組を進める際、重視している事柄はありますか？

A.プロセスとデザイン、コンテンツの3つを重視しています。

Q.地域ビジョンを策定するうえでのご苦労やエピソードを教えてください。

A.2019年からカミハチキテルの前身である紙屋町八丁堀エリアマネジメント実践勉強会で地域ビジョンの検討を始めました。2週間に1回のハイペースでワークショップを重ね、半年後には中間発表をしたのですが、当初は勉強会のメンバーは有志で参加していたこともあって、その後のビジョンのブラッシュアップに向けて、メンバー間の温度感に差が出始め、検討を続けることが困難になりました。そこから、社会実験をはじめとしたアクションファーストでの取組にシフトチェンジし、メンバーの共通体験が増えるにつれ、中間報告時に打ち出した、「ひとのための都心空間」という基本コンセプトへの理解が深まり、地域ビジョンの公表に向け検討が再開され、現在に至っています。

Q.コロナ前後で感じる、都市空間や人々の居場所の変化や、地域の状況について教えてください。

A.屋内空間のリスクが高まったことから、屋外のパブリックスペースを使う頻度が増えたと思うのですが、そうした中でひとびとのパブリックスペースの使い方にバリエーションが生まれるなど、「パブリックリテラシー」のようなものが向上しているように感じます。また、コロナで立ち止まる地域、加速する地域、両方あったと思うのですが、ここで加速できたことが、カミハチキテルにとっては大きなことであったように感じます。

Q.最後に、本イベントへの意気込みや、期待していることなどをお聞かせください。

A.出口先生や最近の丸の内での取り組みについて何うことができるのが楽しみです。参加者の皆さんが一歩前に踏み出すことができるような情報提供とディスカッションができればと思います。

山中さん、ありがとうございました！イベント当日のお話も、ぜひ楽しみに。

次回も別の登壇者の方のご紹介を予定しています。ぜひチェックしてくださいね。

図 4-9 登壇者紹介③名畑氏 note 記事

官民連携まちづくりDAY2022〔登壇者紹介③〕名畑 恵さん（錦二丁目エリアマネジメント(株)）

♡ 10



官民連携まちづくりDAY 2022事務局
2022年1月24日 18:19



こんにちは！官民連携まちづくりDAY 2022事務局です。

2022年2月14日（月）に国土交通省と全国エリアマネジメントネットワークが開催する当イベントの、トークセッション登壇者と、まちづくりの取組を全4回に渡ってご紹介します。

 ファシリテーター	 まちづくりの実践者	 まちづくりの実践者	 まちづくりの実践者
(有)ハートビートプラン 取締役 園田 聡 氏 全国各地でプレイスメイキングの理念・手法を用いた実践・研究に取り組む。都市デザイン事務所。	錦二丁目エリアマネジメント(株) 代表取締役 名畑 恵 氏 地縁組織が立ち上げたまちづくり事業会社。地域主体で策定したまちづくり構想を元に事業推進を行う。	カミハチキテル事務局 (一社)地域価値共創センター理事 山中 佑太 氏 2045年の広島の都市像「プロトタイプシティ」を掲げ、コンテンツリゾート型の都市再生に向けた事業を展開。	(一社)前橋デザインコミッション 企画局長兼事務局長 日下 伸 氏 中心市街地まちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」の推進のため2019年に民間会費で発足。

参加申込は[コチラ](#)

第三弾は、錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役の**名畑 恵さん**より、錦二丁目地区のまちづくりの取組をご紹介します！

錦二丁目地区について

愛知県名古屋市中区の錦二丁目地区（1街区～16街区）は、江戸時代に城下町の一部としてまちの骨格が形成されました。

戦後の焼け野原の時代から日本有数の繊維問屋街へ発展し、碁盤の目状にきれいに整った16街区による街並みが特徴です。



錦二丁目 長者町繊維街の様子（同社HPより）

まちづくりにおいて、多様な分野の企業を巻き込み、不動産や賑わいだけでなく様々なコミュニティサービス充実につなげるため、錦二丁目エリアプラットフォームを立ち上げ、広報・プロモーション・イベントの実施・各種実証実験をしながら、参加型・実験型のまちづくりを進めています。

錦二丁目地区のまちづくりビジョン

錦二丁目地区では、2011年につくったまちづくり構想を羅針盤とし、10年を経た今あらためて錦二丁目未来VISONをつくって現代に合わせた拡張と加速をはかっています。まちづくり構想にある「安心居住」「元気経済」「共生文化」にむけ、自分たちのまちの暮らしを良くするサービスは、自分たちで開発に携わりたいとの考えで、様々な人が活躍できる「舞台」を目指しています。



錦二丁目の8つの目標セット（錦二丁目未来VISION HPより）

錦二丁目エリアプラットフォームについて

錦二丁目エリアプラットフォーム（通称：N2/LAB）は、事務局を錦二丁目エリアマネジメント㈱が担い、愛知県・名古屋市・独立行政法人・まちづくり会社・商工会議所・任意のまちづくり団体・NPO団体から構成されています。

企業や行政、大学など様々な主体が関わり、未来の地区・コミュニティの実現に向けた構想・研究・共創を進める実験の場として活用しています。あらゆる地域で深刻な都市課題が広がる現在において、新しいアイデアを積極的に実証・実装するリアルなまちの実験場として、この地区から日本、世界に向けた新しい「くらし」「しごと」を作る挑戦を、皆様とともに進めます。



N2/LABについて（同社HPより）

当地区は道路が地区の40%を占めています。安全安心かつ快適な公共空間を実現するため、マーケットやイベントなどをはじめとした道路空間を有効活用した賑わい形成のための取組の準備を進めています。

これまでまちづくり協議会等が進めてきた交差点の安全対策や歩道拡幅のための社会実験の効果や課題を踏まえ、多様な世代が安心に、楽しんで使える公共空間の実現に向けて様々なアイデアを実現するための取組を行っています。



N2/LABワークショップの様子（名畑さん提供）

錦二丁目における主な取組

名古屋アウトサイドシートストリート（令和2年9月）

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の支援の一環として、3密の回避などの「新しい生活様式の定着」に対応するために、歩道空間に客席を設置して飲食等を楽しむことができる取組を錦二丁目エリアマネジメント(株)と錦二丁目まちづくり協議会、地区内の町内会で合意形成し実施しました。



「新しい生活様式」を楽しむ住民の様子（名畑さん提供）

長者町ストリートウッドデッキ（平成24年～現在）

長者町の路上駐車枠に都市の木質化によるデッキ設置を構想し、イベントで活用実験を行いました。当実験には、錦二丁目エリアマネジメントも所属する錦二丁目まちづくり協議会や、都市の木質化プロジェクト、名古屋大学、mokkoなどが参加しました。その後、民間オープンスペースに移設し、3年毎に参加型で普請し更新しています。現在3世代目のデッキとなります。





活用実験の様子（名畑さん提供）

みちにわSDGsマルシェ（令和2年、3年）

長島町通り（錦二丁目）の1ブロックを通行止めにし、SDGsをテーマとしたマルシェを2日にわたって開催しました。「みち」を「にわ」にするコンセプトで、車道の一部に人口芝をひき、滞留空間をつくりました。キッチンカーやテントで27ブースを設け、SDGs（持続可能な開発目標）が描く未来の暮らしを体感できる43店舗のマルシェとなりました。

これは、なごや環境大学との協働のもと、錦二丁目を舞台に、地域・企業・団体が連携してSDGsに関する多彩企画を展開してきたSDGsWEEKsの一環として行ったものです。





「みちにわ」の様子（名畑さん提供）

登壇者のご紹介

錦二丁目エリアマネジメント(株)

代表取締役 名畑 恵さん



全国各地のまち育て活動や公共事業のファシリテーターとして携わる。また、名古屋市錦二丁目・長者町地区に学生のころから携わっており、あいちトリエンナーレのまちなか展開事業や「錦二丁目まちの会所」運営を担っている。2018年3月には地縁組織と共に錦二丁目エリアマネジメント株式会社を立ち上げ代表取締役に就任（現在に至る）。2018年5月NPO法人まちの縁側育み隊代表理事就任（現在に至る）。

まちづくりQ&A

名畑さんがまちづくりの取組を行う際のポイントなどをいくつかご回答いただきました。

Q.まちの自慢を教えてください！

A.都心の中でも顔の見える関係があること、長老世代が若者を育てる文化があることです。

Q.まちづくりの取組を進める際、重視している事柄はありますか？

A.新しいサービスや技術など知恵と地域課題が出会う場として、企業を巻き込んだワークショップを積極的に行っています。また、大学の演習をフィールドとして積極的に引き受けています。

Q.地域ビジョンを策定するうえでのご苦労やエピソードを教えてください。

A.コロナ禍のため、地域の声を反映するためには、一人一人にヒヤリングに
いたり、人数を抑えたワークショップを行ったり、工夫が必要でした。

Q.コロナ前後で感じる、都市空間や人々の居場所の変化や、地域の状況につ
いて教えてください。

A.日本は倫理観にゆだねるところが大きいので、疑心暗鬼のひろがりを感じ
る時もあれば、むしろまちづくりの大切さを実感する面もあり、価値観がど
んどん多様化していると感じます。飲食店営業に対する苦情等も難しい問題
です。

Q.最後に、本イベントへの意気込みや、期待していることなどをお聞かせく
ださい。

A. 他地域の到達点に刺激を受け、同時代の悩みと展望を共有できるとうれ
しいです。

名畑さん、ありがとうございました！イベント当日のお話も、ぜひお楽しみ
に。

次回は、いよいよ最終回として、園田さんのご紹介を予定しています。ぜひ
チェックしてみてくださいね。

図 4-10 登壇者紹介④園田氏 note 記事

官民連携まちづくりDAY2022〔登壇者紹介④〕園田 聡さん（（有）ハートビートプラン）

♡ 12



官民連携まちづくりDAY 2022事務局
2022年1月27日 14:02



こんにちは！官民連携まちづくりDAY 2022事務局です。

2022年2月14日（月）に開催予定の当イベントの、トークセッション登壇者と、まちづくりの取組を全4回に渡ってご紹介します。

 ファシリテーター	 まちづくりの実践者	 まちづくりの実践者	 まちづくりの実践者
（有）ハートビートプラン 取締役 園田 聡 氏 全国各地でプレイスメイキングの理念・手法を用いた実践・研究に取り組む。都市デザイン事務所。	第二丁目エリアマネジメント（株） 代表取締役 名畑 恵 氏 地縁組織が立ち上げたまちづくり事業会社。地域主体で策定したまちづくり構想を元に事業推進を行う。	カミハチキテル事務局 （一社）地域価値共創センター理事 山中 佑太 氏 2045年の広島の都市像「プロトタイプシティ」を掲げ、コモンズリート型の都市再生に向けた事業を展開。	（一社）前橋デザインミッション 企画部長兼事務局長 日下田 伸 氏 中心市街地まちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」の推進のため2019年に民間会費で発足。

参加申込は[こちら](#)

最終回は、有限会社ハートビートプラン 取締役の**園田 聡さん**です！早速、お取組からご紹介いたします。

主なまちづくりの取組

園田さんは大阪を拠点とする都市デザイン事務所、（有）ハートビートプランにおいて、取締役として様々な地域のまちづくりに関する取組を行っています。特に「プレイスメイキング（＝都市空間での生活を豊かにする都市デザインのプロセス）」の実践・研究に注力しており、各地での取組や執筆なども行っています。

愛知県豊田市における取組

トヨタ自動車（株）の企業城下町として発展を遂げている愛知県豊田市では、これからの時代の豊かな街のあり方を見据えてまちの主役を「車から人へ」と転換することを目指していました。

その目標と取組方針などを取りまとめて策定された「都市環境計画」に基づき、園田さんは2015年から都心地区の魅力の向上を目指すプロジェクトに携わり、「プレイスメイキング」のアプローチによる公民連携での駅前広場の整備と運営を支援しています。

取組の一環として、2015・2016年の都心地区全体の広場の実証実験を経て、2017年より、豊田市駅東口まちなか広場（通称：とよしば）と新豊田駅東口駅前広場（通称：新とよパーク）の整備に向けた具体的検討が開始され、どちらも2019年から供用が開始されています。

豊田市駅東口まちなか広場「とよしば」

将来的な駅前広場の対象地での暫定的な実証実験として「集まる×育つ×広がる＝新しい豊田のカタチ」をコンセプトに、アイデアやチャレンジの受け皿となる開かれた場を目指して整備が開始されました。都心地区の魅力を改めて体感してもらい、都心全体に「とよた」に対する愛情が育っていくことが期待されています。





「とよしば」の様子（同社HPより）

新豊田駅東口駅前広場「新とよパーク」

ハーフメイド（基本となるインフラなどの最低限の設備を整備した後、実際に利用する中で必要に応じて手を加えていく手法）を用いながら、整備後も運営に携わる覚悟を持っていた利用者の方々とワークショップを重ね、2度の試行実験を経て整備されました。この取組により、利用者の方々と管理者が信頼関係のもとに自由度の高い利用環境を作り上げ、多様な活動の受け皿がまた1つ増えました。

豊田市での取り組みでは、一貫して行政（管理者）と民間・市民（担い手）が、それぞれの覚悟を持って互いを尊重しながら検討してきたことで、「自由と責任」のもとでチャレンジできる環境と「新しい自治の仕組み」を生み出しています。



「新とよパーク」の様子（同社HPより）

「新豊田駅東口駅前広場（新とよパーク）リニューアル整備」プロジェクトが（一財）都市みらい推進機構主催の、令和2年度土地活用モデル大賞において、都市みらい推進機構理事長賞を受賞するなど、全国的にも高い評価を受けています。

兵庫県姫路市における取組

兵庫県姫路市では「街に選択多様性をつくり、豊かな生活シーンを生む」ことを目的として「姫路市ウォーカブル推進計画」を策定し、姫路駅周辺の10のエリアを選定し、「街に出かける動機をつくる」→「心地良い歩行環境をつくる」→「道中に新しい発見など「予期せぬ出会いの機会」をつくる」というステップで、段階的にウォーカブルなまちづくりを行っています。

先行的に取り組む3つのエリアのうちの1つ、世界遺産の姫路城とJR姫路駅を結ぶ「大手前通り」は、市によって快適に歩くことができる環境が整えられているにも関わらず、周辺事業者や市民による積極的な活用が少ないという課題を抱えていました。

ハートビートプランは2019年から市より委託を受け、沿道型の持続可能なストリート・マネジメントを目的とする「大手前通り」の魅力向上プロジェクトとして取り組みを進めており、園田さんはプロジェクト開始当初から、沿道企業を中心とした協議会の中でのプロジェクトチームの組成や、活用社会実験の実施、民間による将来ビジョンの策定などといったプロセス・デザインを丁寧に推進しています。

「大手前通り」の魅力的なシーンを来街者に体感してもらうための機会として、2019年11月には1か月間、2020年度には約1年に渡り「大手前通り活用チャレンジ「ミチミチ」」という活用社会実験を実施しました。

街路そのものだけでなく、沿道建物低層部の在り方や周辺事業者による民間主体の空間運営等が魅力向上のカギとなることを提案し、沿道企業を中心とした協議会の中でのプロジェクトチームの組成、活用社会実験の実施、民間による将来ビジョンの策定、活用スキームの構築、沿道の空間デザインガイドライン作成などを5年間かけて丁寧に進めていくプロセス・デザインを推進しています。将来的には、公民での連携を継続し、駅や駅前広場、近隣公共施設、商店街等の周辺エリアへと広がるまちなか全体の魅力が高まっていくことを目指していきます。



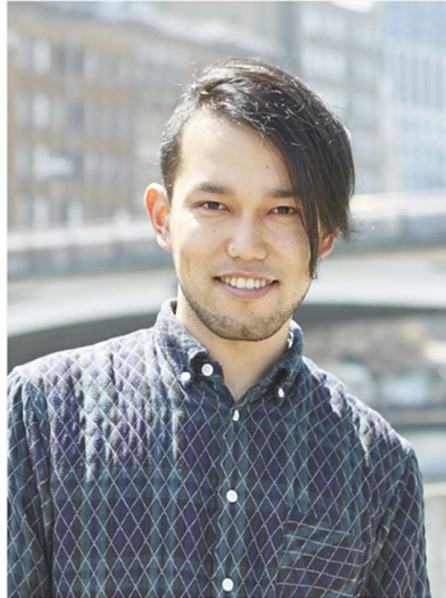
大手前通りでの「ミチミチ」の様子（同社HPより）

期間中は「大手前通り」が多くの人で賑わいを見せ盛況となったほか、2021年には大阪市や神戸市と並び、国土交通省より日本初の歩行者利便増進道路の指定を受けるなど、社会的な成果も得ています。今後「ほこみち制度（歩行者利便増進道路制度）」を活用した、恒常的な道路空間の活用を予定しています。

登壇者のご紹介

(有) ハートビートプラン

取締役 園田 聡さん



埼玉県所沢市生まれ。2009年工学院大学大学院修士課程修了。商業系企画・デザイン会社勤務を経て、2015年同大学院博士課程修了。博士（工学）。2016年より有限会社ハートビートプラン。専門は都市デザイン、プレイスメイキング。現在は、大阪・東京を拠点に全国各地でプレイスメイキングの理念・手法を用いた実践・研究に取り組んでいる。著書に「プレイスメイキング〜アクティビティ・ファーストの都市デザイン〜」（学芸出版社）。

まちづくりQ&A

園田さんがまちづくりの取組を行う際のポイントなどをいくつかご回答いただきました。

Q.手がけられたまちの自慢を教えてください！

A. 豊田も姫路も、ご自身が楽しみながらも覚悟を持って街にコミットされている地元の若いプレイヤーの方々と、それを力強く支えてくださる行政マンの方々がいらっしゃる事です。

Q.まちづくりの取組を進める際、重視している事柄はありますか？

A. 関わる方々それぞれの「なぜやるか」という動機と、「こんなシーンを作りたい」というビジョンを常に共有しながら、バックキャストで取組みのプロセスを考えていくことを大切にしています。

Q.地域ビジョンを策定するうえでの苦労やエピソードを教えてください。

A. 苦労ではありませんが、地域ビジョンは、コンサルとしての私たちが作るのではなく、そこに暮らす方々の想いで作るものです。そのため、とにかく現地に自分も身を置いていろんなことを実際に体感し、いろんな方とお話して、地域の潜在力や新しい価値を多様な切り口で捉えられるよう心がけています。

Q.コロナ前後で感じる、都市空間や人々の居場所の変化や、地域の状況について教えてください。

A. これまで、特に街の中心部で、用途地域に近い形で「住む場所」、「働く場所」、「遊ぶ場所」というのをそれぞれ異なるエリアで充足するという生活圏の方が多かったと思います。それがコロナになって働き方や余暇の過ごし方が制限され、必然的に「住む場所」の近隣で「働く場所」や「遊ぶ場所」も見出すことを迫られてきました。

そうなったことで、「ヒト・モノ・コト」が適度に混在した多様性を持つエリアの豊かさがあらためて見直されてきたと感じますし、これからの時代の豊かな街のあり方にも近づいていくのではないかと感じています。

Q.最後に、本イベントへの意気込みや、期待していることなどをお聞かせください。

A. 私はファシリテーターという立場ですので、ご登壇いただく方々の率直なお考えやアイデアをたくさんお聞きし議論して、参加された皆さんが翌日から「私もこれをやってみよう、こう考えてみよう」とポジティブに思っただけのような場にしたいと考えています。

参加いただく皆さんも、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせください！

園田さん、ありがとうございました！イベント当日のお話も、ぜひ楽しみに。

図 4-11 事前動画公開の紹介記事 出口氏 note 記事

「官民連携まちづくりDAY2022」に先駆け、東京大学大学院 出口教授による YouTube限定の講演動画を公開します！

♡ 8



官民連携まちづくりDAY 2022事務局
2022年2月8日 14:31



こんにちは！官民連携まちづくりDAY 2022事務局です。

いよいよ来週・2/14（月）に迫った本イベントに先駆け、**出口教授（東京大学大学院）による特別映像を公開しました**。本映像はイベント当日の映像では配信されませんので、ぜひYouTubeでご視聴ください！

参加申込は[こちら](#)

出口教授より、地域ビジョンの策定に関する貴重なお話をいただきましたので、ご覧くださいませ。



https://www.youtube.com/watch?v=rs_duyyhBbQ

官民連携まちづくりDAY 2022：インプットトーク①：【事前配信・補足映像】地域ビジョン策定とその後のプロセス（東京大学大学院 出口教授）

登壇者のご紹介

東京大学大学院 新領域創成科学研究科

研究科長・教授 出口 敦さん



東京大学工学部都市工学科卒業、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）。専門分野は都市計画学、都市デザイン学。東京大学や九州大学を経て2011年より現職。公益社団法人日本都市計画学会会長、柏の葉アーバンデザインセンターセンター長、柏の葉スマートシティコンソーシアム統括コーディネータ、(一社)UDCイニシアチブ代表理事等を務める。

図 4-12 事前動画公開の表示画面



4-1-7 申込及び質問募集

イベントへの参加は事前申し込み制とし、オンライン入力フォームで実施した。また、セッション①、②で参加者のまちづくりに関する質問にこたえるため、事前に参加者からの質問を募集した。募集期間や入力フォームなどの詳細は以下のとおりである。

表 4-5 参加者・質問の募集期間

募集内容	募集期間	対応する図表番号
参加申込	令和 3 年 12 月 22 日（水）～令和 4 年 2 月 9 日（水）	図 4-13,14
質問募集	令和 3 年 12 月 22 日（水）～令和 4 年 1 月 31 日（月）	図 4-15

図 4-13 申込フォームの表示画面（スマートフォン・タブレット）

The image shows a smartphone screen displaying a registration form. The header is teal with white text. Below the header, there is a section with a light blue background containing event details. The form itself has a white background with a light blue border. It includes a list of required fields with asterisks. The first field is 'Name' and the second is 'Affiliation (Organization Name)'. There is a text input field for the name and a dropdown menu for the affiliation.

【官民連携まちづくり
DAY2022】参加申込フォーム

オンラインイベント「官民連携まちづくりDAY2022」の
申込みフォームです。

開催日時：2022年2月14日（月）14:00-17:00
申込締切：2022年2月9日（水）

※質問の受付は1/31/月)までになります。

主催：国土交通省、全国エリアマネジメントネットワー
ク

...

* 必須

1. 氏名 *

回答を入力してください

2. 所属（団体名）

図 4-14 参加申込フォームの項目と表示画面（PC）



【官民連携まちづくりDAY2022】 参加申込フォーム

オンラインイベント「官民連携まちづくりDAY2022」の申込みフォームです。

開催日時：2022年2月14日（月）14:00-17:00
申込締切：2022年2月9日（水）

※質問の受付は1/31(月)までになります。

主催：国土交通省、全国エリアマネジメントネットワーク

* 必須

1. 氏名 *

回答を入力してください

2. 所属（団体名）

回答を入力してください

3. 役職

回答を入力してください

4. メールアドレス *

誤入力防止のため、コピー＆ペースト等のご対応をお願い致します。

回答を入力してください

5. 電話番号 *

回答を入力してください

6. セッション①「地域ビジョンのつくり方」に関して、ご質問を受け付けます。

記入例に従い、質問内容をご記入ください。いただいた質問より、可能な範囲で質疑応答の際にお答えいたします。

※質問入力欄は1月31日(金)17:00までを有効とし、以降は締め切ります。

記入例1: 地域ビジョンの住民への理解促進はどのように行えばよいでしょうか。

記入例2: 地域ビジョンをつくる際、○○○○のような課題があります。解決方法やご経験があれば教えてください。

回答を入力してください

7. セッション②「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」に関して、ご質問を受け付けます。

記入例に従い、質問内容をご記入ください。いただいた質問より、可能な範囲で質疑応答の際にお答えいたします。

※質問入力欄は1月31日(金)17:00までを有効とし、以降は締め切ります。

記入例1: 今後、○○○○にはような機能が求められると考えていますが、皆さんのお考えを教えてください。

記入例2: (今回の登壇団体)においては、△△△△に取り組んでいると理解していますが、○○○○のような課題に対してはどのように対処されているか教えてください。

回答を入力してください

6. **セッション①「地域ビジョンのつくり方」**に関して、ご質問を受け付けます。

記入例に従い、質問内容をご記入ください。いただいた質問より、可能な範囲で質疑応答の際にお答えいたします。

※質問入力欄は1月31日(金)17:00までを有効とし、以降は締め切ります。

記入例1: 地域ビジョンの住民への理解促進はどのように行えばよいでしょうか。

記入例2: 地域ビジョンをつくる際、〇〇〇〇のような課題があります。解決方法やご経験があれば教えてください。

回答を入力してください

7. **セッション②「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」**に関して、ご質問を受け付けます。

記入例に従い、質問内容をご記入ください。いただいた質問より、可能な範囲で質疑応答の際にお答えいたします。

※質問入力欄は1月31日(金)17:00までを有効とし、以降は締め切ります。

記入例1: 今後、〇〇〇〇にはような機能が求められると考えていますが、皆さんのお考えを教えてください。

記入例2: (今回の登壇団体)においては、△△△△に取り組んでいると理解していますが、〇〇〇〇のような課題に対してはどのように対処されているか教えてください。

回答を入力してください

8. **個人情報取扱いに関して ***

ご入力いただいた内容は、本イベントの参加案内のためだけに使用させていただきます。同意の上、フォームの送信をお願いします。

☐ 同意する

次へ

図 4-15 追加質問フォームの項目と表示画面（PC）



【官民連携まちづくりDAY2022】 質問フォーム

オンラインイベント「官民連携まちづくりDAY2022」の追加質問受付フォームです。

下記よりお申込をよりお済ませの上、追加のご質問がある場合は本フォームをご利用くださいませ。

参加申込フォーム
<https://forms.office.com/r/73yTNqGxth>

※お申込後の方からの質問のみをお受けいたします。

開催日時：2022年2月14日（月）14:00-17:00
質問受付締切：2022年1月31日（金）

主催：国土交通省、全国エリアマネジメントネットワーク

* 必須

1. 参加申込完了の方のみ、本フォームをご活用ください。
参加申込はお済ですか？ *

☐ 申込済み

2. 氏名 *

お申込時と同一の内容をご入力ください。

回答を入力してください

3. 所属（団体名）

お申込時と同一の内容をご入力ください。

回答を入力してください

4. メールアドレス *

お申込時と同一の内容をご入力ください。

誤入力防止のため、コピー＆ペースト等のご対応をお願い致します。

回答を入力してください

5. セッション①「地域ビジョンのつくり方」に関して、ご質問を受け付けます。

記入例に従い、質問内容をご記入ください。いただいた質問より、可能な範囲で質疑応答の際にお答えいたします。

記入例1：地域ビジョンの住民への理解促進はどのように行えばよいでしょうか。

記入例2：地域ビジョンをつくる際、〇〇〇〇のような課題があります。解決方法やご経験があれば教えてください。

回答を入力してください

6. セッション②「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」に関して、ご質問を受け付けます。

記入例に従い、質問内容をご記入ください。いただいた質問より、可能な範囲で質疑応答の際にお答えいたします。

記入例1：今後、〇〇〇〇にはような機能が求められると考えていますが、皆さんのお考えを教えてください。

記入例2：（今回の登壇団体）においては、△△△△を取り組んでいると理解していますが、〇〇〇〇のような課題に対してはどのように対処されているか教えてください。

回答を入力してください

7. 個人情報取扱いに関して *

ご入力いただいた内容は、本イベントの参加案内のためだけに使用させていただきます。同意の上、フォームの送信をお願いします。

☐ 同意する

4-1-8 事前質問の募集・とりまとめ

事前に受け付けた質問を集計し、取り扱うべき質問を検討した。セッション①には合計 62 件、セッション②には合計 36 件の質問が寄せられた。質問内容の詳細などは、以下のとおりである。

表 4-6 セッション①の事前質問一覧（抜粋）

#	テーマ分類	質問（抜粋）
1	ビジョン策定の具体的手法①:ステップ	地域の住民の方々が参加可能な活動と、一定の投資と回収が発生する事業としてのまちづくり活動があると思いますが、前者に参加される地域の方々と後者に参画される事業者との連携はどのように進められているのでしょうか。（他 2 件）
		町会や商店街などの既存団体だけに限らない多様な主体による地域ビジョンの作り方を教えてください。（他 3 件）
		地域ビジョン作成を始める際、どのくらいの規模で、どのくらいの頻度でディスカッション等始めるのが良いのでしょうか。（はじめは中心メンバーである程度方向性を定める、あるいは最初の段階から地域の方々と巻き込みながらやった方がよい、など）（他 3 件）
2	ビジョン策定の具体的手法②:内容の決め方	地域ビジョンを作り、まちづくりの様々な取り組みを現地実装した後、その効果をみるのが求められると思います。効果はどのような指標で評価するのがベターなのでしょうか。例えば、数値目標はどのような観点で設定すれば良いのでしょうか？（他 1 件）
		（合併等により、商店街等を中心とする都市機能誘導区域が複数ある市町村の場合等、）地域ビジョンはどの程度のエリアでつくるのが有効でしょうか？（他 1 件）
3	ビジョン策定の具体的手法③:費用・法規制	費用負担が発生する場合、だれが負担するのか、人材はどう集めるのか教えてください。（他 1 件）
4	策定したビジョンの使い方	地域ビジョンの検討体制と推進体制を切れ目なく連続的に移行させるために良い工夫はありますか？（他 2 件）
5	住民とのかかわり方:住民参画	地域ビジョンを策定する場合、住民参加とその手法を教えてください。（説明会の運営、住民意見の取りまとめなど）（他 3 件）
6	住民とのかかわり方:その他	地域ビジョンが一方的なものにならないようにするため心掛けなければならない事は何でしょうか。（他 1 件）
		地域ビジョンをつくる際、隣接地域との関係性（連携や競合）について考慮すべきことがあれば教えてください。
7	行政とのかかわり方	行政と関わる中で、困ったこと、こうしてほしいと思ったことがあれば、それに対してどう対応したかも含め、差し支えない範囲で具体例をあげて御教示いただければと思います。
		地域ビジョン(任意計画)と行政計画の関係性の在り方はどうあるべきか。（他 1 件）
8	具体的テーマ	DX 推進に絡めた具体的なツール紹介や導入事例。
9	コロナとのかかわり	「汎用化した地域やありふれた地域」にならないように地域性や特色をどのように吸い上げ、地域住民の方々に参画してもらえるようにしながら、その土地の地域性を具体化していけばいいのでしょうか。
99	その他	ビジョンと現状との GAP を埋めるにあたっての、“まちづくり”ならではの観点をお教え頂きたいです。（他 1 件）

表 4-7 セッション①の事前質問一覧（抜粋）

#	テーマ分類	質問（抜粋）
1	ニューノーマル：課題	都市近郊郊外部におけるニューノーマル時代の空間と機能は、都市部のそれとどう異なるとお考えでしょうか。 ニューノーマル時代にはリアルとバーチャル空間との連携が重要になると思うが、コロナ禍でのリアルな場を運営・管理していく上で、の課題やその一方で、新しい可能性はあるでしょうか。 技術の進歩に合わせた空間・機能が求められると思いますが、今後、時間をどのように捉え、計画に反映すべきでしょうか。
2	ニューノーマル：将来への展望	全ての都市は本当に「15 分都市」のようにコンパクトに集約していくことが可能なのでしょうか。特に、日本においては、すでに都市インフラが過剰に伸び切っています。その中で、生活の質を落とさないよう都市サービスを提供しながら、ヒト・モノ・カネが今後より一層不足する社会は維持可能でしょうか。 ニューノーマル時代における公共空間（公園や街路）は、どうあるべきでしょうか？具体的に教えて下さい。
3	ノウハウ/ナレッジ	公共空間、とくに公園の役割(可能性)は大きくなっていると思います。大規模公園ではなく、地域住民との距離が近い中規模公園(物理的にも、規模的にも)は、どのような役割を担っていくようになると思いますか 感覚的にではありますが、各所でプレイスメイキングのような、箱物にとらわれない居場所作りが、有効なまちづくりの手法になるのでは、と感じています。それら取組の今後の展望があればご教示下さい。
4	IT/デジタル	ニューノーマル時代の中に機械化やデジタル化、AI の活用があると思うのですが、そういった機能と取り入れやすい間口の広い空間や機能はどういったものになりますのでしょうか。インフラなど更新スパンが長い分野が、足を引っ張らないようにどういった考え方やシステムが大事になってくるとお考えになりますのでしょうか。
5	エリアマネジメント	人の集中による地域価値の向上の他に、地域特有の課題解消をエリマネの目標の一つにされているかと思いますが、それはどのようなものなのでしょうか？小規模なまちのエリマネ実施の参考になると思い質問しました。
6	官民連携	行政と関わる中で、困ったこと、こうしてほしいと思ったことがあれば、それに対してどう対応したかも含め、差し支えない範囲で具体例をあげて御教示いただければと思います。
7	コロナとのかかわり	コロナ禍の混乱や反省を踏まえて、感染症の流行に対応した柔軟で機動的な活動や空間のマネジメントを確立する必要があると思いますが、具体的にどのような方法や課題が考えられますでしょうか？
8	資金・費用	都市間交通や都市内交通を見直す必要があると思いますが、道路の予算が国債で賄っている制度でそのための予算が賄えるのでしょうか。
9	具体的テーマ	カミハチキテルは広島都心に「ひとのための場」を提供していますが、広島の特徴としての川やみなどと連携したまちづくりのアイデアがあれば教えて下さい。

4-2 イベント当日の運営

4-2-1 参加者について

事前申込数及び当日の参加者数は、以下のとおりである。

表 4-8 事前申込及び当日参加者数

項目	件数
事前申込数	1,019
当日参加者数	665

4-2-2 イベント運営・配信方法

参加者は全員オンラインで参加をした。登壇者及び運営者は会場（デロイトトーマツ内 GreenHouse）に参集して、撮影・配信を実施した。感染症対策を徹底し実施するため、元来の収容定員の 50%以下で会場を使用し、登壇者の間にはアクリルパネルを設置するなどの対策を取った。

会場のレイアウトや設営状況の詳細は以下のとおりである。

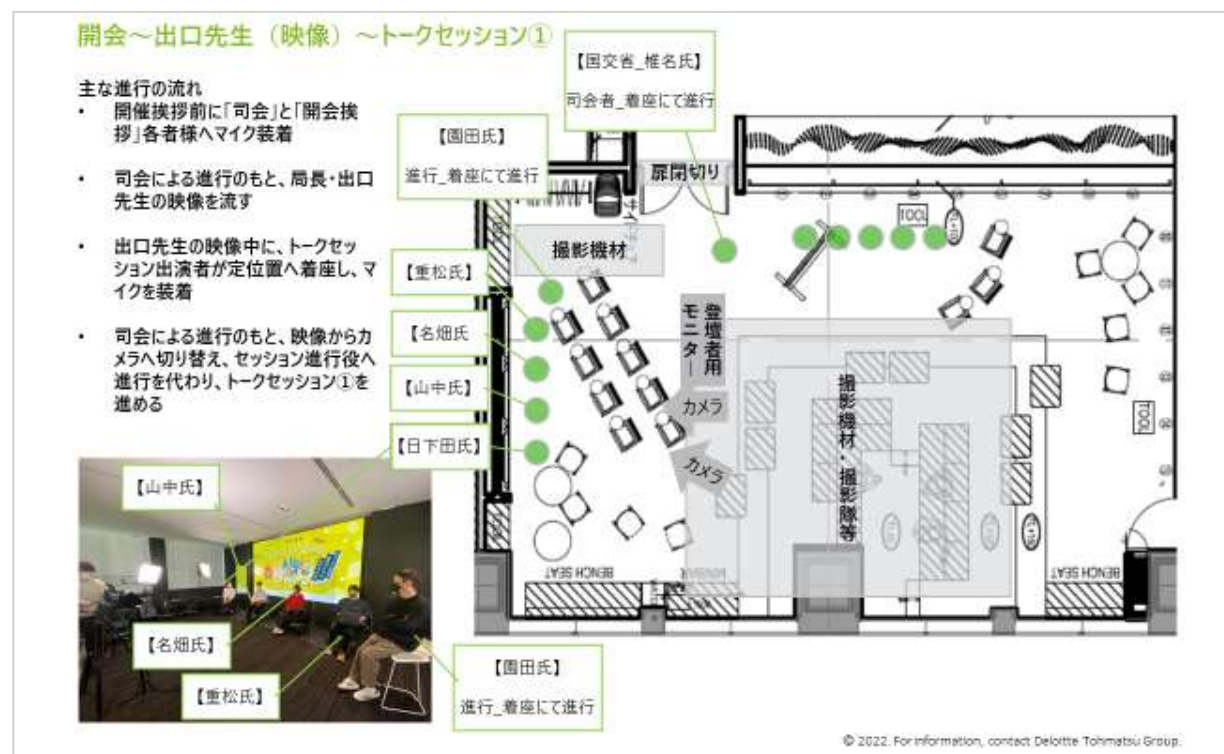
図 4-16 会場のレイアウト図



図 4-17 会場の様子



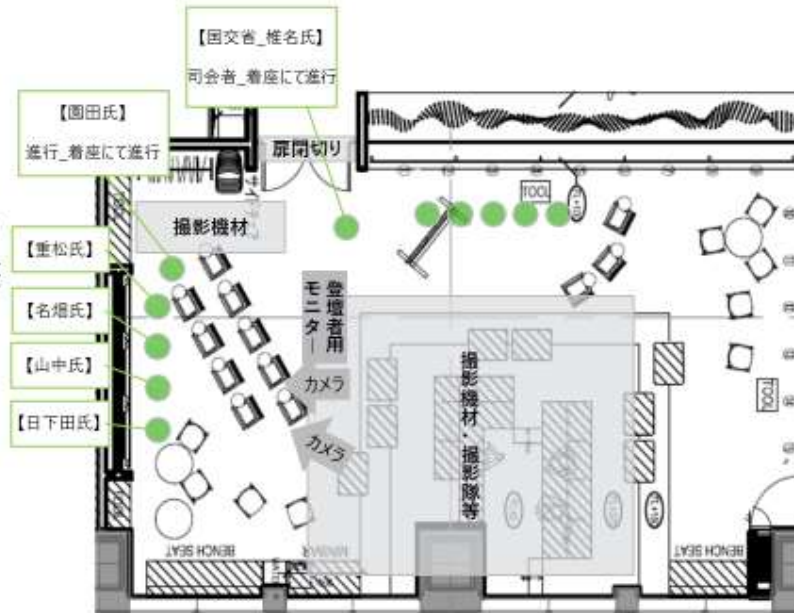
図 4-18 各プログラム時の登壇者レイアウト



トークセッション②

主な進行の流れ

- ・ トーク終了後、司会進行のもと、一旦カメラから画像へ切り替える
- ・ 重松氏はそのままトークセッションの定位置へ着座する
- ・ トーク用のテーブルと椅子を片付ける
- ・ トークセッション出演者を素早く定位置へ着座してもらい、マイクを装着する
- ・ 司会による進行のもと、映像からカメラへ切り替え、セッション進行役へ進行を代わり、トークセッション②を進める



© 2022. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

クロージング・紹介～閉会

主な進行の流れ

- ・ セッション②終了後、登壇者はそのままの座ったまま待機する
- ・ 全国工機長谷川氏は、ばみり位置 (×) へ司会による進行のもと、移動し、コメントをする
- ・ 画面をご紹介資料へ切り替え、司会自ら紹介する
- ・ 司会による進行のもと、全国エリマネ・小屋橋会長のZOOM画面へ切り替え、オンラインでクロージングトークをいただく
- ・ 登壇者はマイクを外し、待機席へ移動する
- ・ 司会による進行のもと、終了画面 (アンケート表示) へ切り替え、閉会する

【外部登壇者】
5名_待機

【全国エリマネ_長谷川氏】
ばみり位置にて総括



© 2022. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

4-2-3 当日の会場の様子

当日の会場の様子は以下のとおり。

図 4-19 場設営時や各プログラム進行中の様子

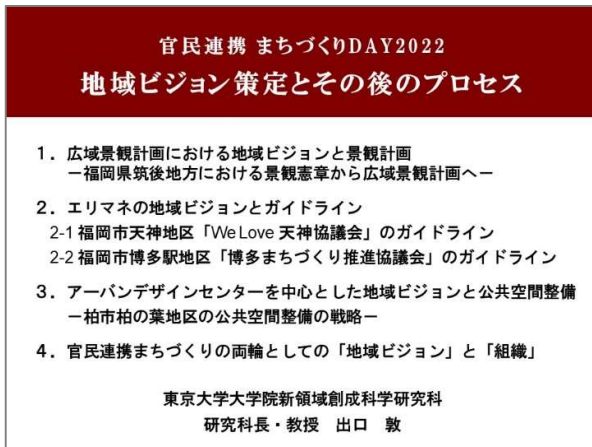


4-2-4 講演資料

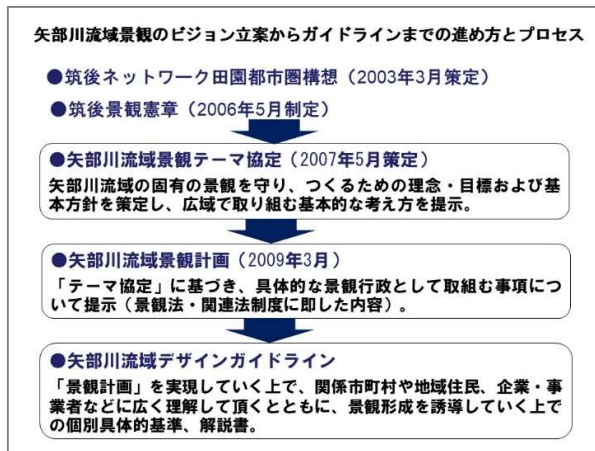
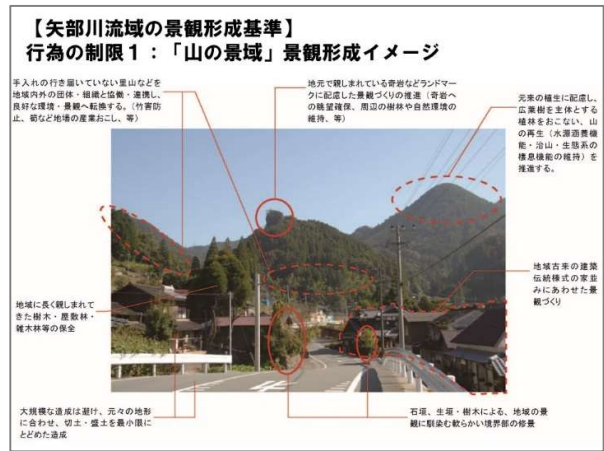
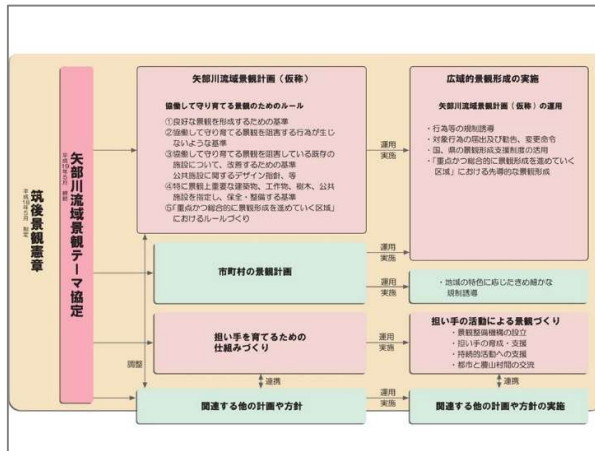
各プログラムの発表資料は下記のとおり。

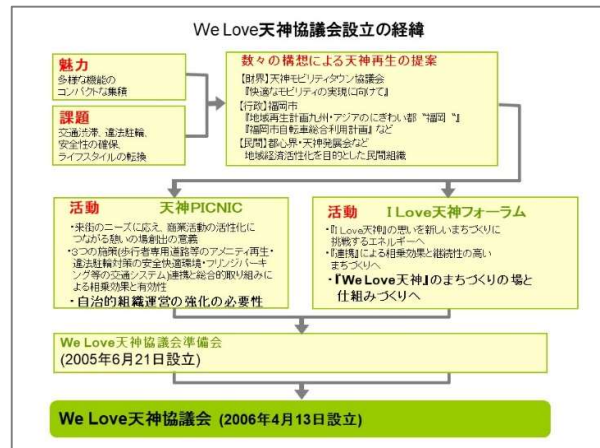
■ インプットーク①

※インプットーク①のうち「1. 広域景観計画における地域ビジョンと景観計画」は、イベント当日の配信からは割愛し、YouTube 特別映像として開催前に事前に公開した。









社会実験「天神ピクニック2004」の目標と目的	
天神社会実験の目標	天神社会実験の目的
(1) 歩いて楽しい都心への再生	(1) 道路を利用した憩いの空間創出の効果の検証
(2) 屋外におけるアメニティ空間の再生	(2) 駐輪場の利用促進策と違法駐輪規制強化、一斉清掃の効果の検証
(3) 公共空間における安全快適環境の育成	(3) フリンジ駐車場とシャトルバスの連携システムの利用満足度の検証
(4) 歩行者と自動車の共生する都心交通システムの構築	(4) まちづくりの継続的自治的取り組みと運営方法の検証
(5) まちづくりの取り組みの自立的運営の確立	



天神ピクニック社会実験の成果を踏まえたエリアマネジメントへ	
ハード建設→ハード活用・再編とハート育成へ	
《目標と戦略》	
1. 天神ブランドの育成・強化・事業化	
2. 目標像・ビジョン（短期・長期）の策定と共有	
3. 総合的施策の策定と実施	
《交通と環境》	
4. 都心の集客力強化のための公共交通の連携	
5. 歩行者の回遊性向上と快適な歩行者環境・交通の整備	
6. 賑わいを創出するオープンスペースと低層階の再生	
《組織と仕組み》	
7. 事業者・市民・行政の都心コミュニティの再構築と協働	
8. 個別対応から集団対応へルール・実効力強化	
→ 駐車場・駐輪場整備への対応：個別設置から集団設置と活用へ	
→ 路上駐車・駐輪への対応：行政の限界→自治的取締りへ	
《方法と運営》	
9. 民官連携のデータ整備・蓄積と的確な現状把握・分析	
10. 定期的（毎年）な計画・ルールの評価と見直し	

「天神まちづくり憲章」と「天神まちづくりガイドライン」

『天神まちづくり憲章』(2007年4月制定)←作品募集コンテスト

『天神まちづくりガイドライン』(2008年策定)

～天神の将来像を多くの方が共有～

天神まちづくりガイドラインは、天神に関わるすべての方々にとっての行動指針となり、将来の目標像を共有していただき、その実現に向けたまちづくりに取り組んでいただくことを期待して策定。

天神まちづくりガイドライン

天神ブランドの確立に向けて

概要版

平成20年4月
We Love Tenjin協議会

「天神まちづくりガイドライン」の構成(策定時)

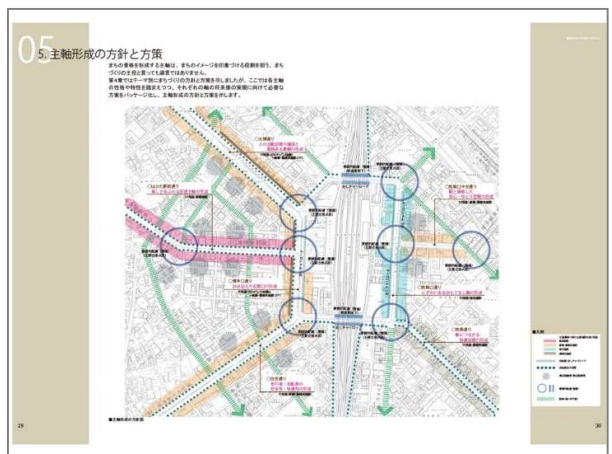
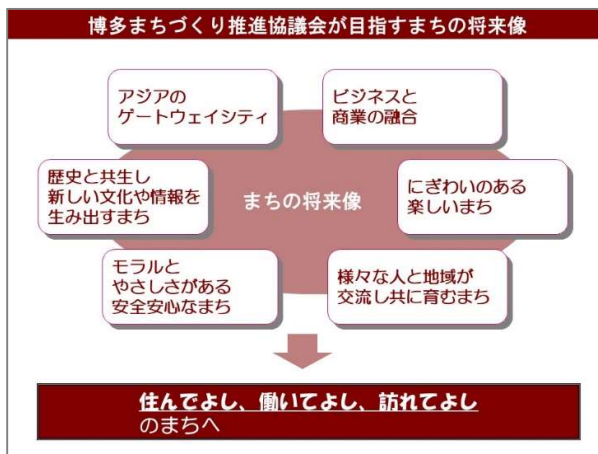
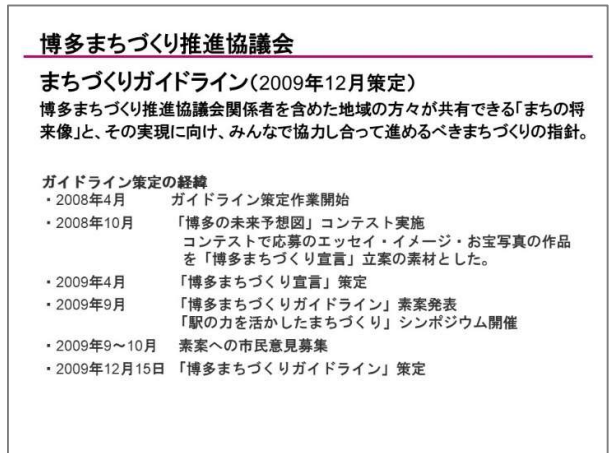
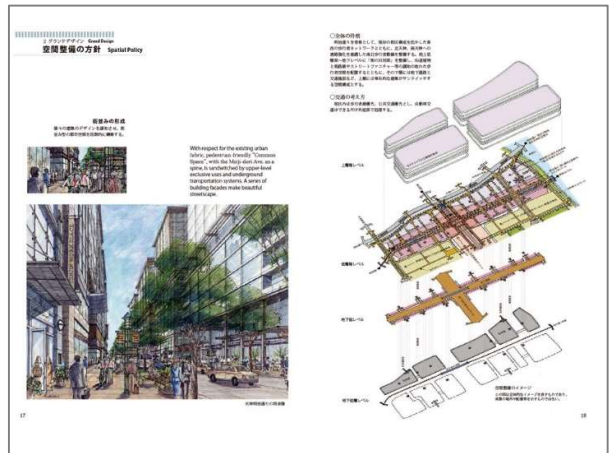
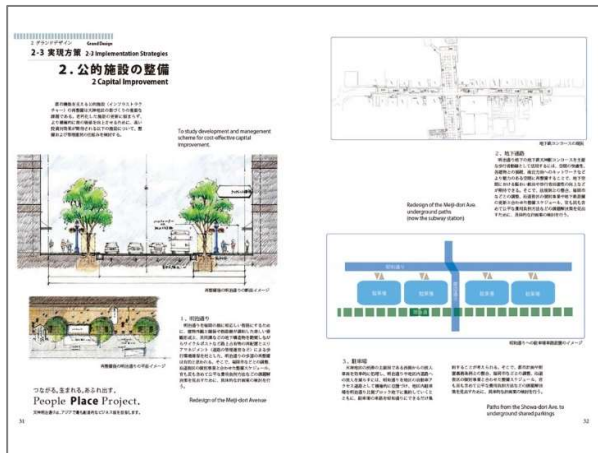
「天神が舞台、天神が地元」戦略

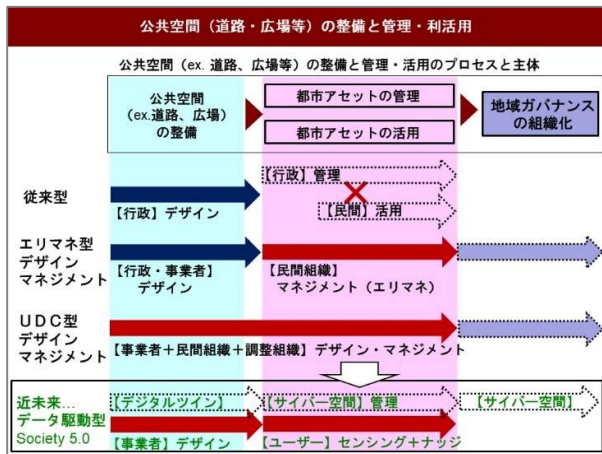
「天神まちづくりガイドライン」におけるまちづくりの検証の考え方

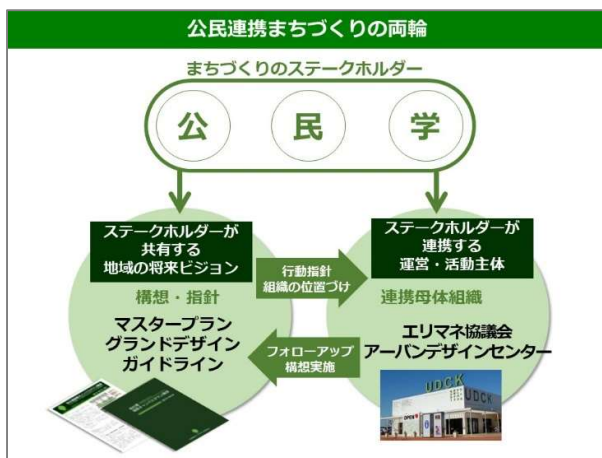
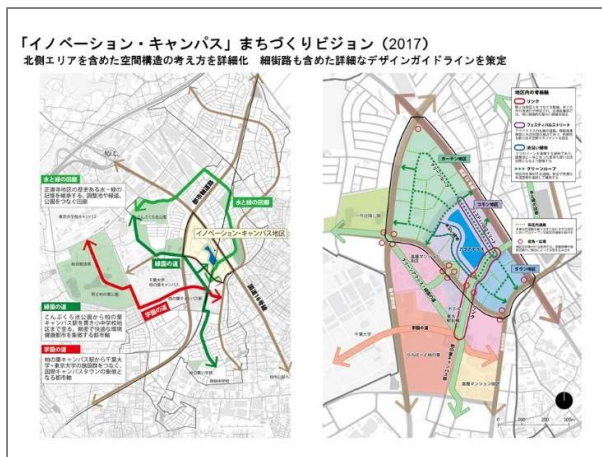
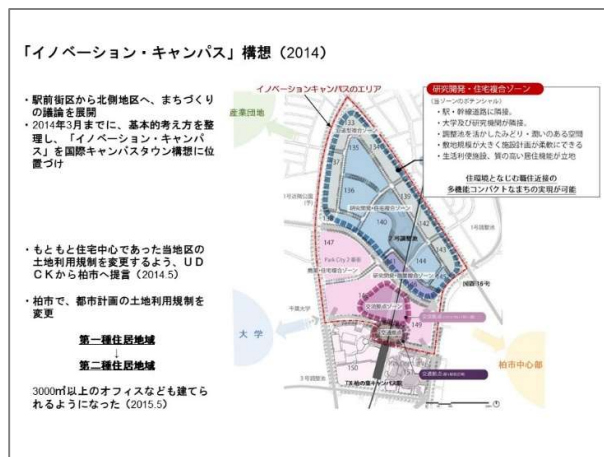
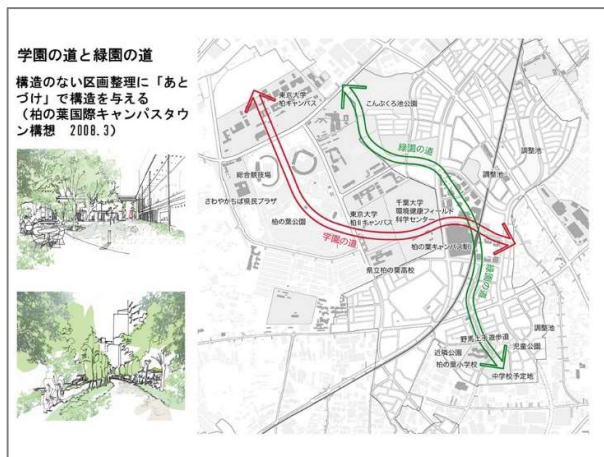
天神明治通り
グランドデザイン
2009

Tenjin Meiji-dori Avenue
Grand Design
2009

Work, Life & the City in the Future







公民連携まちづくりの「地域ビジョン」に関わる課題

- 1) 地域ビジョンのつくり方とつくり上げるプロセスの意味
 - ・住民・事業者が参加の端緒に就くプロセス
 - ・異なる主体ごとの将来ベクトルを束ねる調整のプロセス
- 2) 地域ビジョンの法制度上の位置づけ
 - ・法定の計画（都市再生整備計画）などに位置づける意味
 - ・法制度上の位置づけを持たせるか、あるいは如何にしてオーソライズさせるか
- 3) 地域ビジョンの戦略的活用
 - ・組織内部の方向転換の拠所
- 4) 地域ビジョンの実現に向けた進捗チェック・取組評価
 - ・PDCAサイクルの導入。取組・事業の評価の拠所
- 5) リビジョン（更新）のサイクル
 - ・骨格を維持しつつ、社会経済の変化に対応したリビジョン

■ セッション②

官民連携
まちづくりDAY 2022
セッション①
地域ビジョンのつくり方

◆ 園田 聡 様	(有)ハートビートプラン
◆ 重松 真理子 様	(一社)大丸有まちづくり協議会/三菱地所(株)
◆ 名畑 恵 様	錦二丁目エリアマネジメント(株)
◆ 山中 佑太 様	カミハチキテル事務局/(一社)地域価値共創センター
◆ 日下田 伸 様	(一社)前橋デザインコミッション

セッション①地域ビジョンのつくり方
メインピック①

行政と民間で策定主体が異なる場合のビジョン策定における違いや策定のポイント（目的・アクションプランの粒度感など）について教えてください。

セッション①地域ビジョンのつくり方
参加者のみなさまからいただいた質問

多様化する社会においてまちに対する考え方は人それぞれ。多数決によって合意形成を成しても、一部の意見は取りこぼされ、まちの個性が弱くなるのではないかと考えます。そういった声を拾う余地をビジョンづくりにおいて、どのように設定すればよいでしょうか？（首都圏・コンサルティング）

地域住民が参加可能な活動と一定の投資と回収が発生する事業としてのまちづくり活動があると思いますが、前者に参加される地域の方々と後者に参画される事業者との連携はどのように進められているのでしょうか？（関東・まちづくり会社）

セッション①地域ビジョンのつくり方
メインピック②

策定後のまちづくりの推進を見据えた際、地域ビジョンを「つくる段階」において、プレイヤー（まちづくり活動を行う主体）とディレクター（まちづくり推進を黒子的に調整する主体）と自治体との関係性がどういったかたちであったのか（あるべきなのか）教えてください。

セッション①地域ビジョンのつくり方
参加者のみなさまからいただいた質問

地域ビジョンを作り、まちづくりの様々な取り組みを現地実装した後、その効果を見ることが求められると思います。効果はどのような指標で評価するのがベターでしょうか。例えば数値目標はどのような観点で設定すれば良いのでしょうか。（中部・政治家）

ビジョンから次に進めるために、施策、戦略、KGI等、ビジョン以外に合わせて検討しておいた方が良いでしょう。また、その内容について、成功、失敗事例があれば教えてください。（九州・交通事業者）

セッション①地域ビジョンのつくり方
メインピックアップ③

住民・行政・民間事業者といった様々なステークホルダーの参画意識の醸成や、適切な役割分担等、解決すべき課題がある中で、ビジョン策定においてどのようなプロセスをとったか教えてください。

セッション①地域ビジョンのつくり方
参加者のみなさまからいただいた質問

都市計画マスタープランなど公的位置づけの無い任意の地域ビジョンの場合、共感できるものであることは前提とし、ビジョンの実現にむけてはエリアの当事者（公共空間を保有する行政や沿道企業・商店街等）自らの課題意識に根付かせることが重要且つ難しく感じています。この過程でうまくいくためのコツや必要な検討・体制などを教えてください。（首都圏・建築コンサル）

行政と関わる中で、困ったこと、こうしてほしいと思ったことがあれば、それに対してどう対応したかも含め、差し支えない範囲で具体例を挙げて御教示いただければと思います。（中部・地方自治体）

住民や事業者との協議会を設置し、ビジョンを作っているが、住民や事業者発意の取組に関する意見が出ません。行政への要望ばかりの会議にならないようにするにはどうしたらよいでしょうか。（首都圏・地方自治体）

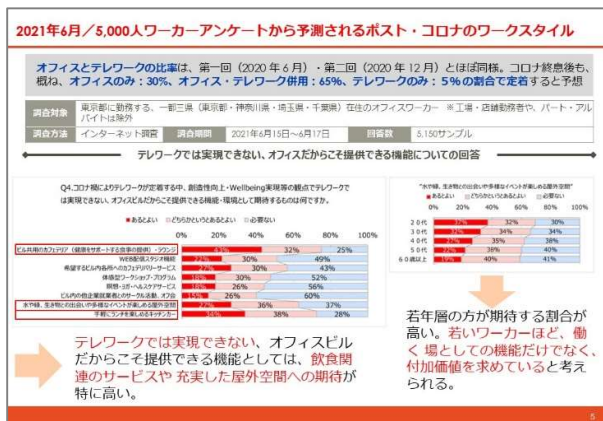
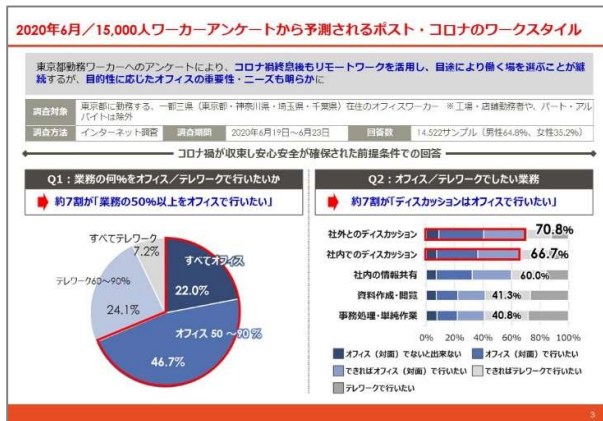
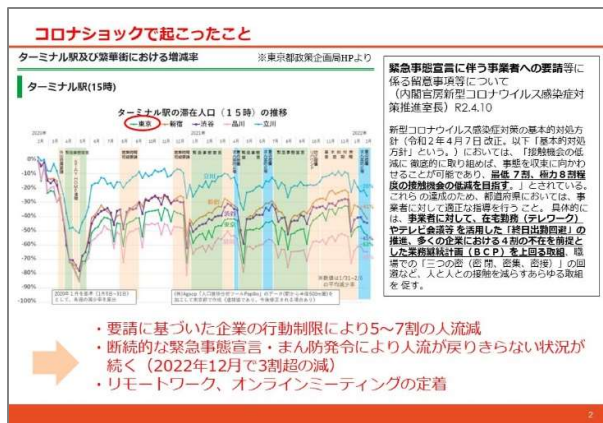
セッション①地域ビジョンのつくり方
参加者のみなさまから多くいただいた質問

地域ビジョン策定の手法について、本日議論に上がった以外で、ビジョン策定のコツがあれば教えてください。（中部・地方道路公社、首都圏・情報サービス 他6名）

■ インプットトーク②

官民連携
まちづくりDAY 2022
インプットトーク②
ニューノーマル時代の
まちづくりに求められるもの

（一社）大丸有まちづくり協議会
都市政策部会長 兼 スマートシティ推進委員会委員長
三菱地所(株) 都市計画企画部 兼 スマートエネルギーデザイン部
ユニットリーダー
重松 眞理子 様



大手町・丸の内・有楽町地区の取組 ～Marunouchi Street Park2020～

新型コロナウイルス感染拡大を受け3密回避が求められる中、Marunouchi Street Park2020を、ポスト・コロナの屋外空間・道路空間の新たな活用方法を検証する積極的社会実験として位置付け

- ① 就業者・求職者共にビルと公共空間を共に積極的に活用できる、安全・安心な都市空間運営の検証
- ② 仲通りの将来的なあり方検証
- ③ 飲食店舗による道路空間の活用検証

【実施日時】
2020年7月27日（月）～9月6日（日）
※24時間車両交通規制実施
【実施場所】
丸の内仲通り 丸の内側3ブロック
【テーマ】
そーだ！ストリートに出よう！！



Block 3 Open Air Office

- 屋外で働く空間づくり
- ・電源を各テーブルに設置
 - ・フリーWi-Fi設備（全ブロックで対応）
 - ・東京駅から受領のパンの木置置き
 - ・自転車、自転車置き場
 - ・屋外スナック

Block 2 Cozy Green Park

- 心地よい緑の空間づくり
- ・天然芝を敷いた公園空間
 - ・路面飲食店舗の道路空間利用（屋外客席）
 - ・ご神木を利用した什器設置

Block 1 Urban Terrace +

- 普段のUrban Terraceを拡大した空間づくり
- ・ソーヤルチのタンクを保持什器配置
 - ・ビル建物の公園空間との連携

大手町・丸の内・有楽町地区の取組 ～Marunouchi Street Park2020～



- 心地よい緑の空間づくり
Cozy Green Park
- ・天然芝を敷いた公園空間
 - ・路面飲食店舗の道路空間利用（屋外客席）
 - ・ご神木を利用した什器設置

大手町・丸の内・有楽町地区の取組 ～Marunouchi Street Park2020～

Block 3 屋外で働く空間づくり Open Air Office



・Wi-Fiを整備し、電源を各テーブルに設置



大手町・丸の内・有楽町地区の取組 ～Marunouchi Street Park2020～

屋外空間・道路空間の新たな活用方法に、アンケートおよび売り上げデータから高い評価を確認できた。また、仕事環境としての屋外空間・ワークスペースとしての可能性を確認できた。



大手町・丸の内・有楽町地区の取組～Marunouchi Street Park2020における人流計測～

人の動きをサイト上にリアルタイム表示。データによる検証結果を今後のオープンスペース活用等に活用



大手町・丸の内・有楽町地区の取組 ～大丸有SDGs ACT5～

概要 大手町・丸の内・有楽町地区全体でSDGs活動の推進を図ることを目的に、国連が掲げる17のSDGsのなかから、下記5つの重点取り組みテーマを設定、約7ヶ月間に渡って様々なSDGsアクションを展開する取組。2020年から開始、2021年は5月～11月に実施。



大手町・丸の内・有楽町地区の取組 ～大丸有SDGsACT5～

2021年は「AT5メンバーポイントアプリ」を導入。新規参加を促し複数のアクションに参加を広げた。また、ユーザーに付与されるポイントアプリデータをもとに、都市活動を一目瞭然と俯瞰的に見せる効果を持つ3D都市モデル上に、ユーザーの活動を可視化。参加者に対して、自身が実施した行動がまちに、社会に、どのように寄与しているかを知る機会を提供。

ポイントアプリデータ
FACTSメンバーポイントアプリ

エリア活動「大丸有SDGsACT5」

エリア活動データの可視化
[AMCI] Area Management City INDEX

大丸有ZIP CODE別活動数
2,214,533

https://amci.tokyo-omy-w.jp/

- 一人一人のまちの活動への参画
- エリア活動の可視化

行政DXへの期待～NYC Open Restaurants (DOT : Department of Transportation) ～

NYC Open Restaurants Program Application

The Open Restaurants Program will assist existing downtown establishments that have been impacted by stay-at-home orders and have been closed since March 2020.

Open Restaurants allow for expanded dining opportunities during temporary street closures. The program may provide establishments with support and better protect establishments in action by force of street work.

By using this application, you acknowledge that you are a licensed establishment and understand and agree to following terms and conditions and all applicable laws and guidelines.

- 申請条件の定型化、オンライン申請
- 申請内容がそのままダッシュボードに
⇒屋外客席を提供している店舗を容易に検索可能
(ZIPコード、席タイプ、アルコール有無等)

ニューノーマル時代のまちづくりのキーファクター

公共空間 は
コロナ禍においても居場所となり
人々の活動や存在を感じさせる まちの元気のバロメーター

エリアマネジメント は
地域の特徴とコンディションを見つめ、まちに賑わいを取り戻す原動力

情報を上手に使い、人々に届ける、つなげる

弾力性のある空間活用・臨機な活動が コロナ禍からのリカバーも早める
この経験は、エリアマネジメントに新たな意味を付与するのではないか

ありがとうございました！

マルケン

■ セッション②

官民連携
まちづくりDAY 2022
セッション②
ニューノーマル時代に求められる
空間と機能

- ◆ 園田 聡 様 (有)ハートビートプラン
- ◆ 重松 眞理子 様 (一社)大丸有まちづくり協議会/三菱地所(株)
- ◆ 名畑 恵 様 錦二丁目エリアマネジメント(株)
- ◆ 山中 佑太 様 カミハチキテル事務局/(一社)地域価値共創センター
- ◆ 日下田 伸 様 (一社)前橋デザインコミッション

**セッション②ニューノーマル時代に求められる空間と機能
メインピック①**

ニューノーマルにおいて変化したものだけでなく、変わらないものや、重要性を再認識されたものも重要です。そういった観点から、重要だと考える点や、実践されている都市でみられた事例があれば教えてください。

セッション②ニューノーマル時代に求められる空間と機能 参加者のみなさまからいただいた質問

都市近郊外部におけるニューノーマル時代の空間と機能は、都市部のそれとどう異なるとお考えでしょうか。（首都圏・鉄道会社）

全都市は本当に「15分都市」のようにコンパクトに集約していくことが可能なのでしょうか。日本においては、既に都市インフラが過剰に伸び切っています。その中で、生活の質を落とさず都市サービスを提供しながら、ヒト・モノ・カネが今後より不足する社会は維持可能でしょうか。（首都圏・コンサル）

官民連携のエリマネは効果的な一方、小規模のまちでは、商業・業務・住宅機能等が交錯し、人の集中による経済・地域価値の向上のみでは効果が発揮しにくい場合があります。登壇各位の、地域特有の課題解消をエリマネの目標は何か？（人の集中による地域価値の向上以外）小規模なまちのエリマネ実施の参考にしたいです。（首都圏・まちづくり専門家）

セッション②ニューノーマル時代に求められる空間と機能 メインピック②

コロナで暮らしが変わっている大部分はオフィスワーカーであり、子供たちや専業主婦、もともと在宅率が高いワーカーにとっては変わらない部分も多いと考えます。また、リモート勤務から出勤スタイルにリアルへ戻す企業も増えています。例えば、子供たちやワーカーにとって、DXが本当に良いか、ニューノーマルを推進することで生じる新たな課題としてどのようなものが挙げられるか教えてください。

セッション②ニューノーマル時代に求められる空間と機能 参加者のみなさまからいただいた質問

ニューノーマル時代に対応できない人も取り残さない工夫や、繋げ方も併せて考える必要があるかと思いますが、具体的にお考えや、実践されていることがあれば教えてください。（首都圏・地方自治体）

公共空間、とくに公園の役割（可能性）は大きくなっていると思います。大規模公園ではなく、地域住民との距離が近い中規模公園（物理的にも、規模的にも）は、どのような役割を担っていくようになると思いますか。（首都圏・地方自治体）

セッション②ニューノーマル時代に求められる空間と機能 メインピック③

参加者よりDX、スマートシティ、ゼロカーボンなど先端技術に関する質問を多数いただいています。そのようなテクノロジーとまちづくりの連携についてどのようにお考えでしょうか。例えば、「地元のまちを楽しんでもらうことでトリップが減る」、「地産地消マルシェの実施により輸送費が減る」などまちづくりとも連携した生活スタイルの変化の延長で、課題解決につながる事例などがあれば教えてください。

セッション②ニューノーマル時代に求められる空間と機能 参加者のみなさまからいただいた質問

ニューノーマル時代の機械化やデジタル化、AIの活用に際した機能や取り入れやすい間口の広い空間や機能はどのようなものですか。インフラなど更新スピードが長い分野が足を引っ張らない為の考え方やシステム上の重要点について教えてください。（首都圏・建築/サービス）

まちのインフォメーション機能について、商業施設や駅/空港など様々な場所に設置されているインフォメーション機能について、渋谷にある「SHIBU HACHI BOX」のようなPR・観光案内・まちの情報発信を行う拠点も現れ始めています。誰もがスマホひとつで欲しい情報にアクセスできる中、インフォメーション拠点の役割の変化しています。今後リアルなインフォメーション拠点に求められる機能や役割はどのようなものでしょうか？そもそも拠点自体が不要といったご意見も伺います。インフォメーション・案内/情報発信/受付/各種サービス対応のように様々な側面があると思いますが、ここでは主に案内/情報発信を行う拠点を想定しています。（東日本・鉄道会社）

セッション②ニューノーマル時代に求められる空間と機能 参加者のみなさまから多くいただいた質問

ニューノーマル時代のまちの魅力を地域住民に伝えるには、どのような方法が効果的でしょうか？（首都圏・システム、首都圏・情報サービス、他1名）

官民連携

2022

まちづくりDAY

創設された制度活用に関する情報発信

国土交通省 都市局
まちづくり推進課 官民連携推進室
企画専門官 椎名 大介

まちなかウォーカー推進事業の概要

○都市再生整備計画事業等において、車中心から人中心の空間に転換し、「居心地良く歩きたくなるまちなか」の創出に向けて、歩行空間の拡大や公共空間の活性化、民間用地を活用した公共空間の整備などを重点的・一体的に支援する事業

事業主体等	【文交付金】市町村、市町村都市再生協議会 国交省：1／2	【補助金】都道府県、民間事業者等
施行地区	①都市再生整備計画事業の施行地区、かつ、 ②都市再生特別措置法に基づき滞在促進性等向上区域（周辺環境整備に係る事業を含む）	

対象事業

【歴史系事業】
商店街、公園、既存建造物活用施設その他、既存ストックの機能・改変メニューに限定。

【防災系事業】
避難場所指定、まちづくり創生基金（社会福祉）等の活用による防災拠点に基づく外壁塗装（ハード事業）

- ウォーカー型空間整備
 - 道路、公園、広場等の既存ストックの改修・改善
 - まちがたのウォーカー域を支援する周辺環境の整備
 - 例）緑地の形成、POP・看板の設置、歩行者優先の信号機など
- イベントの展開
 - お祭り等の1箇所以上へのパレード、市民参加型の大規模なまち歩き等の実施
 - 1階部分の透明化等の価値増進
 - 例）百貨店の1階部分の開放、商業・観光向けに公共空間を整備 など
- 滞在地域の向上
 - 滞在型観光産業を新たに基幹事業として創設
 - 滞在地域の上にある駅南口・ラゾーナ・ホテルなどの必要施設等の整備
 - 滞在型観光に関する公共交通機関・ユーティリティの整備
 - 例）社会実験の実施、デザインセンター活用施設の導入 など
- 景観の向上
 - 景観資源の活用
 - 例）外観刷新、経路沿いの整頓、建物の美観性 等

4-2-5 セッションの記録

当日のセッションの記録は以下のとおり。（表中の敬称略）

■ セッション①：地域ビジョンのつくり方

ハートビートプラン （園田）	当トークセッションは「地域ビジョンのつくり方」について、トピックを大きく 3 つに分けて進めていく。 1 つ目のトピックについて、行政と民間で地域ビジョンの策定主体が異なる場合の、ビジョン策定の違いやポイントについて議論したい。また、参加者の方からも「多様化する社会においてまちに対する考え方は人それぞれ。多数決によって合意形成を成しても、一部の意見は取りこぼされ、まちの個性が弱くなるのではないかと考えます。そういった声を拾う余白をビジョンづくりにおいて、どのように設定すればよいでしょうか？」や「地域住民が参加可能な活動と一定の投資と回収が発生する事業としてのまちづくり活動があると思いますが、前者に参加される地域の方々と後者に参画される事業者との連携はどのように進められているのでしょうか？」等の質問を頂いているので、これらの質問を交えて議論をしていきたいと考えている。またビジョンは多少曖昧なものではある一方で、これを定めていないと実際に活動していく際に逸れてしまう恐れがあるとも考えているが、カミハチキテル（以下「カミハチ」と記載）のプロジェクトについて、取り組みの前段としてまちのビジョンを策定した際、どちらかというと民間主導で取り組みを進めたと伺っているが、取り組みの紹介も含めて、どのような主体が、どのような手法で策定したのか、山中さんに伺いたい。
カミハチ （山中）	2019 年 3 月に、カミハチの前身の勉強会が立ち上がり、そこからビジョン策定を目指したワークショップを開催しビジョンの中間案を策定したが、そもそも勉強会の位置けとしては有志の方に集まってもらうことになっていたため、ビジョンをオーソライズすることができていなかったため、このままビジョンを検討するのではなく、まずは行動しながらみんなの足並みを揃えていくという方向性になり、公共空間を用いた社会実験をすることとした。その結果、共通体験というかたちで人中心の都心を作っていくことの理解が生まれ、意識が醸成されていき、ビジョンをブラッシュアップすることができ、昨年の 10 月に最終案として発表した。
ハートビートプラン （園田）	今のお話だと、確かにビジョンについての話はしたが、ビジョンをオーソライズすることが難しかった中でアクションを間に挟んだということになるが、実際に体験することで変化があったということか。
カミハチ （山中）	社会実験の初日に変化が見られて、関係者の方が来た時に当初 2 か月の予定が、3 か月から 1 年という期間に延長されることになるなど、空気感が変わった部分があった。
ハートビートプラン （園田）	以前、私も現地に伺った際、民間企業との関わりが多いと感じ、特に資金調達の面で凄いなと感じた。 錦二丁目で行われている取組は、民間企業だけでなく住民との暮らしにも近いと考えているが、錦二丁目ですべて取り組まれてきた内容と、錦二丁目におけるビジョンについて、名畑さんに伺いたい。
錦二丁目 （名畑）	二丁目はあくまで「自分たちのまちは自分たちで守り、育む」という方針のもと、住民主導での構想を持っている。また、私たちのエリアは名古屋を代表するよう大きなエリアでないため、繊維

	の伝統を活かしながら地域住民で未来を創っていこうと考えている。 そんな中、私たちはビジョンを大きく 2 つ持っており、一つは 10 年前、住民の総意で作成した、現在の活動の羅針盤となるようなビジョンで、二つ目は、国土交通省より補助頂いて作成した、外の仲間が活躍できる舞台を作り、それを拡張していくための未来ビジョンである。特にこの一年でいうと、企業の仲間を増やして課題を実際に解決するサービスを実証実験として行い、そのサービスで得た結果を改めてビジョンに反映して取り組んでいるという段階にある。
ハートビートプラン (園田)	10 年前のビジョンは現在も掲げられていて、新しいビジョンとは役割が違うということか。
錦二丁目 (名畑)	住民の数自体は 450 人程度である一方、昼間人口は 2 万人がいるといういわゆる食住融合のまちをどのように描いていくかということは既に 10 年前のビジョンに描かれており、課題は明確になっているものの、誰が解決していくのかという状態で止まってしまうので、適宜立ち返りながら実際に仲間と進めていくという駆動力を持ったビジョンにしていった。
ハートビートプラン (園田)	エリアの特性によって名畑さんと同様の悩みを抱えているまちもあると思うが、昼間人口のパイが大きい一方、地元住民が少ない中で実際にビジョンを掲げて何か取り組みするとなった場合は名畑さんの会社が主導でコーディネートしてアクションを起こすのか。
錦二丁目 (名畑)	プロジェクトごとによって異なるが、例えば今現在リーディングプロジェクトとして、今春オープンする再開発があり、その再開発のエリアマネジメント（以下「エリマネ」と記載）の拠点が 6 月にオープンすることになっているが、私たちが描いてきた構想が実際にかたちになっているような段階で、まさに地域の方々と会社を設立して地域一帯の事業として進んでいる。加えて、民間企業にも参加頂いて、地域の力だけでは実現できないことでも、プロジェクトごとに様々な競争の中でやっていきたいと考えている。
ハートビートプラン (園田)	山中さんのアクションの話もそうだが、やはり場があって顔が見えるというかたちはすごく大事だと思う。 大手町・丸の内・有楽町地区（以下「大丸有」と記載）だと、民間の事業者と行政が官民の協調というかたちで取り組んできたからこそ、現在ここまでかたちになっているという部分もあるかと思うが、改めて、大丸有において行政と連携したからこそ実現したことはどんなことがあるか、最近の取組も交え、重松さんに伺いたい。
大丸有/三菱地所 (重松)	大丸有まちづくり協議会は基本的に大丸有の地権者の集まりであり、当初は「再開発推進協議会」という名前の経営者の団体として主にハード面での再開発を推進していたが、そんな中で千代田区や東京都、JR 東日本、大丸有まちづくり協議会の 4 者でまちづくりの将来像を考えていくための「まちづくり懇談会」という会議体が発足し、その将来像を実現するためのルールと手法を推進方策とともにガイドラインの中に位置づけたうえで、4 者がそれぞれのタイミングでそれぞれの役割で実現している、というのが大丸有のやり方である。また、最も緩やかなガイドラインはおおむね 20 年後の将来像とともに描くということで策定しており、特に改定の時機は定まっていないものの、社会環境の変化に応じて 4～5 年に一度改正されている。 当初は地権者が集まった一つの合意形成基盤であったが、まちづくりの進展に合わせ、現在は地権者だけでなく様々な人とまちづくりを進めるようになり、ガイドラインに紐づくテーマごとにビジョンを描いている。この点について、まちづくりを進める上での役割分担に行政と民間が、各々

	が主体として取り組んでいるというのは、我々は比較的寛容であると考えている。
ハートビートプラン (園田)	確かに寛容だと思ふし理想的であると思う。まちへの投資の回収のスパンは民間と公共団体で認識が違ふと思われるが、大丸有の場合はこれまでの蓄積があった上で比較的足並みが揃っていったということか。
大丸有/三菱地所 (重松)	まちづくり懇談会やガイドラインが行政の中でも尊重されているというのはあると思う。
ハートビートプラン (園田)	民間が話したことについても法的な位置づけを作っているということだと理解した。 前橋市の場合は、前橋市が大きなビジョンを策定し、前橋デザインコミッション（以下 MDC と記載）が推進役となって取り組みを行っていると認識しているが、MDC の具体的な役割と、ビジョンを実現するプレイヤーがどのようなかたちで連携しているのか、日下田さんに紹介頂きたい。
前橋市 (日下田)	前橋の場合は、ビジョンを策定する主体と、それを具現化する主体が明確に分かれており、まず官と民が連携して 2016 年にはオール前橋のビジョン、2019 年には前橋市アーバンデザインのビジョンを策定し、そのビジョンを実現するための主体として MDC が実働 2020 年 5 月から取り組みを行っている。そのため、やるべきことはとてもシンプルで、MDC が先導して何かを行うというよりは、取り組みの規模感を問わず前橋市のビジョンである「めぶく。」の文脈に沿って、取り組みの成功率を挙げていくようなファシリテーションや支援を行うのが仕事である。また市は「お上」であると同時にプレイヤーの側面もあるため、結果的に官民連携が生まれているように感じる。
ハートビートプラン (園田)	非常にわかりやすい説明だった。特にコロナ禍における規制緩和の中で、救済措置のような意味合いや、反対にニューノーマルの際に誰が主体となって進めていくかが難しい中で、ファシリテーターという役割は非常に大事だと思う。 次のトピックについて、参加者の方より「地域ビジョンを作り、まちづくりの様々な取り組みを現地実装した後、その効果をみるのが求められると思います。効果はどのような指標で評価するのがベターでしょうか。例えば数値目標はどのような観点で設定すれば良いのでしょうか？」といったご質問や「行政と関わる中で、困ったこと、こうしてほしいと思ったことがあれば、それに対してどう対応したかも含め、差し支えない範囲で具体例をあげて御教示いただければと思います。」といったご質問を頂いているが、これまでのお話を含めて行政と民間の中間支援のような役割がどのような立場で働くのかはとても重要だと感じている。山中さんの所属する地域価値共創センターはそういった中間支援的な役割も担っていると認識しているが、行政側との付き合い方と、民間企業さんとの成果の図り方について、教えてほしい。
カミハチ (山中)	様々な関係機関との関わりで言うと中間支援的な立場という役割もあるが、事業の推進役も担っている。加えて、地元の方と対話から、これまでのまちづくりの中で行政とちゃんと対話ができる人がいなかったという課題があったが、我々のようなコンサルティングができる人が、行政と民間の間で翻訳を行うような役割も担っている。 これまで行政が都市計画を作成し、民間にそれを落としこむという流れになっていたが、行政発信で行うことで民間側が止まってしまったり、住民からの反発が起こってしまうことがあった。そんな中で官民連携というかたちで民間側からビジョンが出てくることによって、行政側がそれに協調し、行政としても自分たちがやりたかったことが民間を通して実現できるようになるなど、民間と行

	政との間の中間媒体になっている部分も非常に大きな役割であると考えている。
ハートビートプラン (園田)	行政側としては、ビジョンといった際に、なぜそのエリアに手を入れるのかという位置づけがないと動けない部分もあるかと思うが、錦二丁目は名古屋市中でどんな位置づけなのか、これまで名畑さんや地元住民が検討して合意形成を得るまでの経緯も踏まえて、名畑さんに教えて頂きたい。
錦二丁目 (名畑)	私が名古屋市に期待していることは、社会と小さなエリアを繋ぐ審美眼を持ってもらうことである。例えば、2011年に国土交通省の担い手支援事業においてビジョンを策定し、名古屋市に提示したところ「時期尚早」と言われて、その後の一年間共同して調査を行ったことがあったが、この調査を経てビジョンを描くことができ、錦二丁目がどのような位置づけにあるのかを指摘頂くことができた。また、名古屋市のまちづくり企画課の中にある登録団体認定制度の「応援会議」を用いてビジョンの中間地点の中間報告を行った結果、14の課に提案を聞いていただくことができたのだが、提案した案がどの課と協働できるのかを知るための場を設けて頂いたのは非常にありがたかった。他方、社会性や地域全体との接点を持つという意味では、私たち地域側にも専門性が必要であり、それがエリマネの会社の役割であると感じている。
ハートビートプラン (園田)	おっしゃるとおり、現在感じている課題とビジョン、現時点でできることが見えるという点で、非常に重要であると感じる。 広島の場合、まずビジョン策定より先にアクションを起こしたという経緯があると認識しているが、現状を把握して課題を見つけた後、その課題を解決する過程で到達出来ないステップがあると思うが、どのように対応したのか。
カミハチ (山中)	カミハチ未来デザインは、2045年というかなり先にターゲットイヤーを設定している分、現在は自由に話ができていると考えている。既存のデザインで言うと、最初のお題目として「プロトタイプシティ」を掲げており、2045年という被爆百周年を迎えた次の100年を広島がどのように過ごしていくのかについて書かれているが、カミハチとしては行政と民間がそれぞれ掲げているものを「つまみ食い」のようなかたちで逆算して掲げているという点では、合意形成の方法として新しいと思う。
ハートビートプラン (園田)	個人的に、ビジョンは一定程度曖昧でも良いと考えており、それを様々な関係者の方と共有していくことが重要であると考えている。 市が策定したビジョンを推進する組織としてデザインコミッションがあると理解しているが、ビジョンとアクションプランにギャップがあった場合に、ファシリテーション含め現場の事業者と連動してスムーズに取り組を進めることができるのか、日下田さんに伺いたい。
前橋市 (日下田)	例えばフレームワークを考える際、「ビジョン→戦略→戦術」という階層で考えるが、経営だけでなくまちづくりにおいても、ビジョンからいきなり戦術＝アクションプランに進んでしまい、間の戦略がないという事象が起こりうると思う。そんな中、前橋はビジョンがしっかりと策定されており、戦略としてのアーバンデザインも出来ているため、それに基づく戦術（＝アクションプラン）も大きくずれることはないと感じている。
ハートビートプラン (園田)	確かに、仮に本格的に事業としてやっていこうとした場合、戦略がしっかり設計されていなければならぬと思う。
前橋市	前橋の場合は、ビジョン策定はドイツの会社、アーバンデザインはアメリカの会社にそれぞれ依

(日下田)	頼をしており、MDC の私も宇都宮から単身赴任しているという状況であり、外部から専門家を連れてまちづくりを行うのか、地元の人の中でまちづくりを行うのかに正解はないと思うが、外部の人の客観性や俯瞰性を重視したまちづくりが今のところうまくいっている。
ハートビートプラン (園田)	確かに、まちづくりのフェーズによっても異なると考えられ、外からの視点を入れることは重要であると考えている。 大丸有において、これまでの 30 年という期間の中で、例えば取り組みがうまくいかなかった場合、ブラッシュアップを行う際どのような基準で測って戦略や戦術にフィードバックし、関係者に共有しているのか、重松さんに伺いたい。
大丸有/三菱地所 (重松)	元来、大丸有は地権者の集まりであり、行政とも対等のステークホルダーとして、それぞれが役割をもってまちづくりをしているが、現在のまちづくり活動は、ガイドラインに基づいて毎年活動方針を策定し、その方針に基づいて懇談会や協議会組織の運営が進められている。 既に地権者だけでなくまちの内外の方々にまちづくりに関与して頂く体制はあるが、今後これまで以上にまちづくりに係るステークホルダーが多くなると仮定した場合、まちづくり自体をより発信していかなければいけないという課題があると認識しており、特にまちづくり活動の成果を伝えていく上でまちづくりの定量的な評価の基準を示すことができていないと考えているので、今後は例えばデータ活用などを用いて向上させていかなければならないと考えている。
ハートビートプラン (園田)	海外の事例を見ると、定量的な面と定性的な面どちらからもまちづくりのビジョンが共有されており、特に現在のコロナ禍含めてまちでの過ごし方やそもそものゴール設定が変わり、それに連動してまちづくりを測る指標も変わっていていると思う。 セッション②では、ニューノーマル時代のまちづくりの技術やまちでの暮らし方の変化などについて、改めて皆さんにお話を聞いていくこととする。

■セッション②：ニューノーマル時代に求められる空間と機能

ハートビートプラン (園田)	当セッションでは「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」というテーマで話を進めるが、トークに入る前に、先ほどのインプットトーク②のお話しの最後にあったニューヨーク市のオープンレストランの取組について、私のニューヨーク市にいる知人の話にも話を聞いたところ、行政としては最低限の道路の選別をしたうえで、基本的には事業者からの自己申告に基づき、取り組みを進める中で何か問題があれば、双方が解決に向けて努力をするという柔軟な対応が見られると思うが、日本の場合は公共空間に対するクレームがあった場合どうしても管理者である行政がすべてリスクを取らなければならないので、行政としてはリスクをできるだけ下げていくために、考えられる全ての想定を用意して不測の事態がないように解決してからでないと実際の制度の運用ができなくなってしまうと思うが、行政に柔軟に運用して頂くために、行政がもう少しチャレンジできる部分や、反対に民間の方が責任を持ってリスクを引き取れるといった部分があれば、重松さんに補足頂きたい。
大丸有/三菱地所 (重松)	おっしゃるとおり、許可と届出の違いというのが非常に大きいと感じている。日本では、例えばコロナ禍での占用の手続きにおいても、その地域の協議会がまとめて占用許可を出しても良いとした事例もあったが、まさにそれは日本のエリマネらしい手掛かりになると考えており、その地域のそれぞれのお店が各自で申請するのは大変なので、エリマネに一定程度責任を持たせるかたちは良いと思う。加えて、許可制となると各管理者の責任が非常に過大になってしまう恐れがあり、手続きを受ける側も煩雑になってしまう気もするので、例えば2段階方式のようなかたちにするのも良いのではないかな。
ハートビートプラン (園田)	日本においても、コロナ占用特例が適用されていく中で、特措法等の様々な特例制度でなくとも柔軟に対応できるということの証にもなるので、コロナが落ち着いた際は、実際にどのくらい問題が起こったのか業者からのフィードバックがほしい。加えて、個人的に現場で話しているとそもそも管理者の言っていることは正しいことなので、根本的な権限移譲も含めた部分を抜本的に見直していかないといけないと思う。やはり行政と民間が対等な立場で、それぞれが得意な役割分担を全うするべきであり、何か問題が起こった際、いきなり行政へのクレームとするのではなく、地域住民の中で解決できる部分も一定程度あるのではないかな。 これから本題に入るにあたり、初めに「ニューノーマルにおいて変化したものだけでなく、変わらないものや、重要性を再認識されたものも重要です。そういった観点から、重要だと考える点や、実践されている都市でみられた事例があれば教えてください。」というトピックを扱っていくが、視聴者の方から、例えば鉄道会社の方から「都市近郊外部におけるニューノーマル時代の空間と機能は、都市部のそれとどう異なるとお考えでしょうか。」や、「全都市は本当に『15分都市』のようにコンパクトに集約していくことが可能なのでしょうか。日本においては、既に都市インフラが過剰に伸び切っています。その中で、生活の質を落とさず都市サービスを提供しながら、ヒト・モノ・カネが今後より不足する社会は維持可能でしょうか。」といったご質問や、この後のメイントピック②に絡む質問として、「ニューノーマル時代に対応できない人も取り残さない工夫や、繋げ方も併せて考える必要があるかと思いますが、具体的にお考えや、実践されていることがあればご教示ください。」もしくは「公共空間、とくに公園の役割（可能性）は大きくなっていると思

	ます。大規模公園ではなく、地域住民との距離が近い中規模公園（物理的にも、規模的にも）は、どのような役割を担っていくようになると思いますか。」といった質問も頂いているが、これらの質問も絡めて、コロナを経て変わったことと変わらないこと、あるいは子どもや常勤的な勤務をしているワーカーとは限らない方（高齢者や、いわゆる「専業主婦」など）などにとってのニューノーマルについて、まず初めに名畑さんのご意見を伺いたい。
錦二丁目 （名畑）	コロナ禍において、住民や働く人にとって公共空間における出会いと交接というのが課題だと強く感じているが、先ほどのテラスの規制緩和については錦二丁目においても取り組んでおり、現在 16 ブロックのエリアの中で 11 もの店舗が参加し、実際にかなり風景が変わってきている。またユーザーとしての実感として、例えばこのコロナ禍においては事前に約束した上でしか人と会わないようになってしまったと思うが、信頼関係を育んでいく上で、偶然の出会いの中で色んな人に会うのが大事であるということに気づいた。私たちの場合、特にこの一年は資金調達をしなければならず直接会って人と話をしなければならなかったため苦労したが、一定程度空間そのものに支えられている面もあったと思う。
ハートビートプラン （園田）	私も偶然の出会いは個人的に重要であると感じていて、これまでのまちづくりの中で、パブリックな場所を作ってエリアを推進してきたというのは偶然の出会いの可能性を高めるための側面もあったが、コロナ禍においてはパブリックな場所を作って人の密度を上げていくこと自体をやめざるを得なくなってしまった。 広島のカミハチにおいても、2 回目の社会実験が行われた中で、人と偶然の出会いや空間の活用という点で、考えが変わった点、反対に変わらなかった点があれば、山中さんに教えて頂きたい。
カミハチ （山中）	基本的には名畑さんのおっしゃるとおりで、実際の社会実験中にも、パークレットの空間にいると色んな知り合いに会うことができたが、やはり直接話をできるというのは非常に大事であると感じた。一方でリモートの良さもあると考えていて、カミハチで考えると、エリア外の外部の方と様々なかたちで関わらせて頂く中で、遠い距離の方々との繋がりが非常に意識できた。また事務局の専門家チームで考えると広島の方は半分程度しかおらず、残り半分は遠方の方だったものの、毎週オンラインでミーティングができていたのは、コロナが流行したからこそ抵抗なくできたことであると感じている。
ハートビートプラン （園田）	カミハチは純粋なオフィス街ではないものの経済活動を中心としたエリアで、社会実験以外にも沢山パブリックスペースがあると思うが、このコロナ禍の流れの中で、一度落ち込んで、また慣れていたのか。
カミハチ （山中）	カミハチの社会実験が始まったのが 2020 年の 2 月であり、日本においてコロナが発覚したのとほとんど同時期だったという意味では、コロナと共生してきたかたちにはなるが、特に広島はコロナを言い訳にせず、むしろ関係者や行政と調整する中でコロナをきっかけとして前向きなチャレンジがしやすくなり、結果として課題意識が集まったと考えている。単純に「公共空間使いましょう」というだけではなく、人々の安全や食生活、商売を守るために取り組むという意識が社会問題とリンクしており取組としても進めやすかったうえ、カミハチでの取組を真似して他のエリアでも社会実験が増えていったという印象がある。
ハートビートプラン	一方で、これまでの名古屋や広島のお話は一定の人口規模のある都市において都心部へ

(園田)	の人口密度の集中という前提があった中での変化のお話だったと思うが、各エリアで人口や場所の規模が異なっており、人の生活圏という観点においても、単純な大小だけではない差があるとも感じている。そういったことも踏まえ、このコロナ禍で変わったことと、反対に変わらなかったこと、あるいはミッションを戦略や戦術として実現していくというフェーズに今後アプローチを変えていく部分と、変えずにおく分があれば、日下田さんに伺いたい。
前橋市 (日下田)	私自身は 2020 年の 5 月から前橋で仕事をしているため、まちのビフォーを知らないという前提で、残念ながら前橋の商店街自体はシャッター街の象徴的によく扱われるが、まちの人に聞いたところ、コロナ前と比べて、飲食店等直接的にダメージを受けられている業種もあるものの、実際の通行量でいうと以前と大きな差がなく、むしろここ数年は微増の傾向にあり、少々楽観的すぎるのかもしれないが、コロナは大きく関係ないというか、あくまで土地が持っているそもそもの能力の結果であると捉えている。 前橋市アーバンデザインの 3 つのメインテーマのうちの 1 つである「ミクストユース」というのは、昼間人口と夜間人口を平準化させ、低層はお店に、中間層はオフィスに、高層には住居にしようという取組だが、これはコロナ前から定義として示されていたが、先見の明というよりは、本来冷静になって地方都市の設計をすればそうなるだろうということが描かれていたことになる。また、いわゆる転入超過か転出超過かという議論も追い風になったとするならば、単純に以前から備えられていたという意味であり、そこは前橋市がスマートだった点だと認識している。
ハートビートプラン (園田)	ミクストユースについて、これまで前橋に拠点を置いていなかった企業や国の機関が前橋の方に回帰した結果、オフィス需要が高まった、あるいはシェアオフィスやコワーキングスペースの活用といった、いわゆるオフィスの動態において何か変化はあったか。
前橋市 (日下田)	現時点どちらも起こっている。この辺に本社があるような企業の支店の営業所の統廃合は現実に進んでおり、実際に空いているテナントも出始めている。一方で、東京ではなく地元で起業したいという声もよく耳にするし、相談も受けることがある。テナント稼働の正確な数字までは把握できていないが、実際にまちを歩いている人の頭数自体はそこまでダメージを受けているわけではないと認識しており、特に大企業の統廃合はかなりの強制的を伴うと考えられるが、個々の意識が地方に向かっているというのは間違いなくあると思う。簡単に言えば、これまで東京で起業しようと考えていたが、地方都市の方がイニシャルコストは安く済み、何度でも再チャレンジができるというハードルの低さにみんな気づき始めているということだと考えており、IT カルチャーの急速な普及や、ニューノーマルといわれるトレンドの変化がかみ合って地方の恩恵になっていると思う。
ハートビートプラン (園田)	今後の地方都市の特に中心部を考える際、もう少しポジティブに考えられる部分があると思う。コロナ云々に関わらず、そもそものビジョンとして方針が事前に共有されていたため、いざ社会の変革が起こったとしても、比較的スムーズにアクションができるというのは、おっしゃるとおり重要な点であると感じた。
前橋市 (日下田)	やはりまちづくりは腰を据えて長期スパンで考えるべき話だと思うので、ニューノーマルとはまた別の話になると思う。今までの前橋におけるアーバンデザインは、マスプロダクトといえばまちづくりという認識を持っていたが、自分たちのまちを再定義することによって、まさにニューノーマルというマスプロダクトをするのではなく、ニューノーマルという多様化をしていくのであるということに気がつか

	ないと、ニューノーマルを読み違えてしまう恐れがあるとも感じている。
ハートビートプラン (園田)	頂いたご質問の中にも、公園やオープンスペースの価値の見直しに関するお話や、例えば広島や名古屋でいうと、支店を引き上げていく企業だけでなく、地場の企業や、その地域で暮らしているワーカーの方まで含めるといくらか議論があったと思うが、例えば広島でエリマネを展開していくとなった場合に、企業やスポンサーなどの民間側における取り組みの価値判断の変化について、現場では具体的にどのような議論が起こっていたのか、カミハチの次の展開も踏まえて教えて頂きたい。
カミハチ (山中)	実際の数字として東京から広島に進出している企業が増えてきているものの、やはり都心部だけを考えるのは視野が狭く、特にコロナ禍においては対応しきれない部分もあるので、現在作成している未来デザインの中における都心のあり方についても見直しの議論がなされており、それこそ郊外や瀬戸内も含めたエリアにおいて、いわゆるワークスペースをどのように考えるかというテーマでの議論が盛んである。加えて、スタートアップ企業の招致の議論も行っているが、どうしても広島のみだと限界があるので、広島を瀬戸内のゲートのような位置づけとしてワーケーションの拠点とすることや、あるいは都市連携のようなかたちで、広島だけでなく瀬戸内全体を含めた地方と東京の関係性を作った上で受け入れを行うといったような議論が出ており、まさにこの議論自体がコロナによって生まれた議論だと考えている。
ハートビートプラン (園田)	コロナによって、どちらかという広島のみにおける選択肢に気が付き、視野が広がったということか？
カミハチ (山中)	名古屋も同様かと思うが、名古屋も広島も都市単位で考えると東京と大きな差はないと考えているので、バックグラウンドを地域とつなげていくことがエリマネでも重要だと考えている。
ハートビートプラン (園田)	視野を広げた際のビジョン捉え方という点について、実際にその地域に住んでいる子どもや高齢者にととのコロナの影響を踏まえた上でも、ビジョンを持って錦二丁目で暮らしていくという考えについて、何かポジティブな議論が生まれたか、名畑さんに伺いたい。
錦二丁目 (名畑)	まちづくりの構想を策定した 10 年前は子どもや高齢者の方も多くいたが、この 10 年で状況は大きく変わったものの、今後また住む人が増えていくという想定をしているため、この構想においても子どもや高齢者福祉というテーマを改めて置き直す必要があると考えている。 特にこの 1 年 SDGs をテーマに取り組みを行っており、特に住む人と働く人を結び付けてきた。例えば民間企業を巻き込むにあたり、社会を変革するためのテストフィールドとして錦二丁目を位置づけてもらい、実際に私たちが地域でお手伝いをするというかたちで様々な実験ができたと認識しており、イノベーションの交流の場の提供を積極的に行ってきた 1 年だったと言える。 加えて、錦二丁目のエリアは公園がなく道路が広いので、公共空間として道路をどのように豊かにしていくかという点は以前から議論がなされており、今月末に歩道上に休憩スペースを 2 つ作ることになっているが、改めてビジョンに立ち返って、公共空間を豊かに使いながら管理自体も地域でやっていこうという方針で進めている。
ハートビートプラン (園田)	確かに、エリアの捉え方の一つとしてテストフィールドは有用だと思う。その地域の住民や働く人にとって、提供される新しい技術やサービスが自分たちの暮らしの中で実装されていくというのは面白いと感じるはずである。 丸の内仲通りについても実験的に使っていくことによって可能性が広がった部分もあるかと思う

	が、仲通りの空間活用以外にも、スマートシティや SDGs などのキーワードも踏まえて、これから大丸有で取り組まれようとしていることがあれば、重松さんに教えて頂きたい。
大丸有/三菱地所 (重松)	まずストリートパークは、ある種の前進する実証実験プログラムであり、検証した結果を踏まえてデザインしていくという流れになる。具体的に言うと、例えば緑の効果を測定するための温熱の環境検証や、今年度は身体的な面での心地良さの検証を進めていが、まずは参加して頂き、それに対する共感を得るような結果を出していくということが重要性を増していると感じている。また、このコロナ禍において、まちづくりに携わっているメンバーだけでなく一般の住民まで含めてこれ程までに人々がまちというものを見つめたときがあったことはないと考えていると同時に、スマートシティの観点では様々な技術を持っている方や様々なアイデアを持っている方がまちに直接的に関わるプレイヤーになれるチャンスが増えるという点で、まちづくりは前進していると感じている。加えて、大丸有は住人が一人もいないため、場所に対する帰属意識が課題となっているが、やはりそれぞれのユーザーがサービスを与えられるだけでなく、能動的にまちに関わっていることを実感してもらうための装置やツールというのがポイントになると考えており、まさに今が端境期として良い時期なのではないかと思う。
ハートビートプラン (園田)	おっしゃるとおり、技術の恩恵によって、双方向に物事を決めている人たちと、ユーザー側の人たちの距離が近くなったというのは確実に言えると思う。 まちづくりにいて何かビジョンを掲げた後、ただ単に現場の声を拾い上げて上にあげるといったボトムアップのような方式は既に時代遅れであり、現代のまちづくりにおいては、技術の進歩や考えが変化したことによって、実際の現場において、ユーザーや利用者のアクションがそのまま次の変化になり、有機的に物事が動いていくような状況にあると考えている。 頂いた質問の中に、「ニューノーマル時代の機械化やデジタル化、AI の活用際に際した機能や取り入れやすい間口の広い空間や機能はどのようなものですか。インフラなど更新スパンが長い分野が足を引っ張らないための考え方やシステム上の重要点について教えてください。」といった質問や鉄道会社の方からの質問について、従来はいわゆる交通の結節点において情報をアナウンスしていたが、今や直接的に個人が持っているデバイスに情報が届き、そもそも家を出る前に情報を取捨選択した上でまちに繰り出すようになったため、人が物理的に集まる拠点性も連動して都市を追うごとに変わっていく可能性もあるかと思うが、この点について具体的なご意見があれば伺いたい。
カミハチ (山中)	おそらく今はニューノーマルの方向性や正解がわからない過渡期にあると認識しているので、だからこそ変化に対応するための仕組みや組織の体制、物事の決め方をちゃんと決めておくことが大事だと考えている。 例えば、来年からカミハチの事業構造が変わることになっており、当初は事業をたくさん保有した上で数千万円単位の予算をもとに、稼いだお金で団体運営していくという想定をしていたが、今では事務局のお金の規模はできるだけ小さくし、個別の事業ができ次第、逐次資金調達をしていく方向性になっている。これによって、事務局としても身軽になる分機動力が生まれるため、その分変化にちゃんと対応できるようになるという点で、これからの時代に必要なエリマネ団体の財源の在り方の一つになるのではないかと感じている。
ハートビートプラン	確かに、議論を新しく始めようすると、まず事務局運営費の計算から始まるというのは起こり

(園田)	うる話だと思うが、その前にそもそも何をやりたいのかを定めたいので、そのために必要な体制や予算を検討するのがしかるべきかたちだと思うので、先ほどのお話は新しいと感じる一方で、まちとして戦略を用いて取り組みを行うときに、全体の進行管理や全体最適に向かっているか否かのマネジメントについてはどのように考えているか。
カミハチ (山中)	全体の運営を行う最低限の運営費は必要だと思うが、そこに必ずしも大きなお金をかける必要はなく、本当にやりたいことをやるためのお金があれば良いのではないかと考えている。
ハートビートプラン (園田)	前橋においても、プロジェクトごとに達成度合いを評価して、その結果によって投資が起こるといふソーシャルインパクトボンド（以下「SIB」と記載）などの仕組みもあると伺っているか、具体的にどのようなものなのか、日下田さんに伺いたい。
前橋市 (日下田)	私の理解では、マネジメントというのはリソースプランニングをすること、言い換えればヒト・モノ・カネを最適化していくことだと認識している。現状 MDC 自体は 2 人しかおらず、お金も 148 名の方から頂く会費のみであり、物はほとんど無いような状態なので、頂く会費をベースに最低限の所帯を維持しながら、SIB や寄付行為、基金システムといったプロジェクトファイナンスのバリエーションを増やしていくことで今後も運営を継続していきたいと考えている。 そういう観点で考えると、SIB は一つの突破口になったと考えており大変ありがたいと感じているが、理想は、例えばまちの住民の預金を MDC ファンドに入れてもらい、活用されたお金を見える化するようなサイクルのモデルを設けるなど、色合いを変えながら、まちづくりのプロジェクトファイナンスモデルを作りたいと考えており、徐々に実績が出始めているという段階にきている。
ハートビートプラン (園田)	とても面白い取り組みだと思う。すでに前橋において SIB が始まっているというのはすごいと感じており、例えば休眠預金の話でいうと、まちづくりの分野に再配分して使っていくとなった場合の投資の目的や投資の判断については日本でもより明確化されていくべきであり、それがまちづくりの分野における資金調達の原動力になっていくのではないかと考えている。 私自身、本日ビジョンとニューノーマルという切り口でお話しをする中で、特に終盤で議論した「共感」というのは大事な点だと感じたが、最後に、ビジョンというテーマに絡めて、本日の感想や各地区が目指している姿など、皆さんより一言ずつ頂きたい。
大丸有/三菱地所 (重松)	当イベント全体やスマートシティ等のテーマにおいて感じていることとして、エリマネに携わる団体はそれぞれ異なる理由があって協同しており、その単位の定義も異なるが、そこに一定の共通目標と共感があるという点が非常に面白いと感じている。また、やはり一定の客観的責任を持つかたちで、これまで以上にエリマネに対する期待や、私たち自身の気持ちも高まってきている。また、地域の内外の方から、そのエリアに対する一定の信頼に信頼で結びついている塊として、センサーのデータ活用等を用いて様々な問題を乗り越えている部分もあると思うので、エリマネの更なる社会的地位の向上を目指して、制度や基準を整備していくことが、ニューノーマル時代に重要な方向性なのではないかと感じた。
錦二丁目 (名畑)	みなさんの話を聞いて、身の引き締まるような思いがした。今回のテーマであるビジョンの具現化について、私のエリアでは 6 月にまちの拠点オープンするということになっており、そこが今後のエリマネの 1 つのベースになっていくと考えており、今後も小さなベースを回しながら様々なプロジェクトに挑戦できるという体制を作っていく段階になっていくので、今後も勉強させて頂きたいと思った。

カミハチ (山中)	エリアビジョンの可能性について、カミハチが行われている場所自体はとても小さいエリアだが、今では広島という都市全体のビジョンを掲げていて、従来は行政主導でまち全体のビジョンをトップダウンで考えていたようなことが、現在ではボトムアップでビッグアイデアを出していくことによってまち全体を変えていくことができるのではないかという希望が今の広島にはあると感じている。そして、おそらく今日ご覧いただいているあの方々の中にもまちの中心的なエリアのまちづくりをされている方が多いと思うので、エリアの外も含めたビジョニングを目指して頂けると嬉しい。
前橋市 (日下田)	実はビジョニングには裾広がりが必要な部分もあり、前橋ビジョンの「めぶく。」はオール前橋市のビジョンだが、私が実行しているアーバンデザインは前橋市の中心市街地だけの戦略であるため、例えば前橋市内の他のエリアのルーラルデザインやツーリズムデザインであるとか、それぞれの地域の中でそれぞれが目指す姿が見えてくると、よりパワーが生まれると思う。ビジョニングに縦だけでなく横への広がりが生まれ、だんだん理解されるようになっていけば、より価値が上がるのではないかと感じた。
ハートビートプラン (園田)	本日はビジョニングとニューノーマルという 2 つのテーマに分けて議論をしてきたが、視聴頂いた方にはぜひ 4 名の方の知見や悩みを受け取り、咀嚼した上で、皆さんの経験に落とし込んで頂きたいと考えている。今の時代は、何か新しい正解が上から降ってくる時代ではないので、自分たちが情報を取捨選択する物差しを持ち、そこから皆さんが集まって議論をして、様々な知見を共有すること自体がとても有意義だと思うので、今後もこの企画も含めて、議論の場を持てると良いと思う。

4-3 イベント後のとりまとめ・発信

4-3-1 参加者アンケートの実施

参加者に対して、イベントに関するアンケートを実施した。申込同様、オンラインで行い、アンケートフォームの URL や QR コードなどは、イベント後に Zoom 上で紹介した上で、参加・申込者に向けてメール配信にて依頼を行った。実施内容の詳細は、以下のとおりである。

表 4-9 アンケート募集期間

募集内容	募集期間	図表番号
アンケート	令和 4 年 2 月 14 日（月）～令和 4 年 2 月 21 日（月）	図 4-20,21

図 4-20 アンケートフォームの表示画面（スマートフォン・タブレット）

The image shows a smartphone screen displaying a survey form titled '【官民連携まちづくり DAY2022】参加者アンケート' (Official-Citizen Partnership Community Building DAY2022 Participant Survey). The form is in Japanese and includes the following information:

- Online event: 'Official-Citizen Partnership Community Building DAY2022' survey form.
- Release date: 2022年2月14日（月）14:00-17:00
- Response deadline: 2022年2月21日（月）17:00
- Organized by: 国土交通省、全国エリアマネジメントネットワーク (Ministry of Land, Infrastructure, and Transport, National Area Management Network)

The survey questions are as follows:

* 必須 (Required)

1. 本イベントを知ったきっかけは何ですか？（複数回答可）* (How did you learn about this event? (Multiple answers possible)*)

Options for question 1:

- ☐ 国土交通省のメールマガジンやHPを見て (Saw it on the Ministry of Land, Infrastructure, and Transport's email magazine or HP)
- ☐ 全国エリアマネジメントネットワークからの案内を見て（メール、SNS等） (Saw it on the National Area Management Network's guidance (email, SNS, etc.))

図 4-21 アンケートフォームの項目と表示画面（PC）



【官民連携まちづくりDAY2022】 参加者アンケート

オンラインイベント「官民連携まちづくりDAY2022」のアンケートフォームです。
開催日時：2022年2月14日（月）14:00-17:00

回答締切：2022年2月21日（月）17:00

主催：国土交通省、全国エリアマネジメントネットワーク

...

* 必須

1. 本イベントを知ったきっかけは何ですか？（複数回答可） *

- ☐ 国土交通省のメールマガジンやHPを見て
- ☐ 全国エリアマネジメントネットワークからの案内を見て（メール、SNS等）
- ☐ noteの記事を見て
- ☐ 登壇者のSNSを見て
- ☐ 知人等に勧められて
- ☐ その他

2. 本イベントに参加した理由は何ですか？（複数回答可） *

- ☐ 官民連携まちづくりに関する取組に興味があったから
- ☐ 第一部「地域とジョンのつくり方」に興味があったから
- ☐ 第二部「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」に興味があったから
- ☐ 登壇者とその取組に興味があったから
- ☐ 国土交通省の取組に興味があったから
- ☐ 全国エリアマネジメントネットワークの取組に興味があったから
- ☐ その他

3. 本イベントで、最も面白かったプログラムを1つ教えてください。*

- ☐ インブットーク①「地域ビジョン策定とその後のプロセス」(出口教授)
- ☐ セッション①「地域ビジョンのつくり方」(各実践者)
- ☐ インブットーク②「ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものとは？」(重松氏)
- ☐ セッション②「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」(各実践者)
- ☐ その他

4. 5のプログラムを選んだ理由を教えてください。

回答を入力してください

5. 本イベントプログラムを視聴した感想を教えてください。*

	とても満足	やや満足	普通	やや不満	不満
インブットーク①「地域ビジョン策定とその後のプロセス」(出口教授)	☐	☐	☐	☐	☐
セッション①「地域ビジョンのつくり方」(各実践者)	☐	☐	☐	☐	☐
インブットーク②「ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものとは？」(重松氏)	☐	☐	☐	☐	☐
セッション②「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」(各実践者)	☐	☐	☐	☐	☐

6. 本イベントプログラムの所要時間について教えてください。*

	ちょうど良い	やや長い	長い	やや短い	短い
インプットトーク①「地域ビジョン策定とその後のプロセス」(出口教授)	☐	☐	☐	☐	☐
セッション①「地域ビジョンの作り方」(各実践者)	☐	☐	☐	☐	☐
インプットトーク②「ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものとは？」(重松氏)	☐	☐	☐	☐	☐
セッション②「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」(各実践者)	☐	☐	☐	☐	☐

7. その他、全体を通したご意見・ご感想等がございましたらご記入ください。

回答を入力してください

8. イベント全体を通しての感想を教えてください。*

	とても満足	やや満足	普通	やや不満	不満
	☐	☐	☐	☐	☐

9. 次回開催時に希望するテーマなどがございましたらご記入ください。

回答を入力してください

10. お住まい(都道府県) *

回答を入力してください

11. お住まい（市区町村）*

回答を入力してください

12. ご職業*

☐ 地方公共団体

☐ 国

☐ 大学関係者

☐ 民間企業

☐ 各種団体

☐ 学生

☐ その他

13. ご専門*

☐ 都市

☐ 建築

☐ 土木

☐ 出版・メディア

☐ その他

14. 年齢*

☐ 10代

☐ 20代

☐ 30代

☐ 40代

☐ 50代

☐ 60代

☐ 70代以上

☐ 男性
☐ 女性
☐ その他

16. 本アンケートの取扱いに関して *

ご入力いただいた内容は、本イベントの内部的な検討にのみ使用させていただきます。同意の上、フォームの送信をお願いします。

☐ 同意する

次へ

4-3-2 参加者アンケートの結果

参加者向けのアンケート結果の集計は、下記のとおりである。

表 4-10 参加者アンケートの回答件数

項目	件数
当日参加者数	665
参加者アンケート回答件数	193

図 4-22 イベント参加のきっかけ（複数回答可）

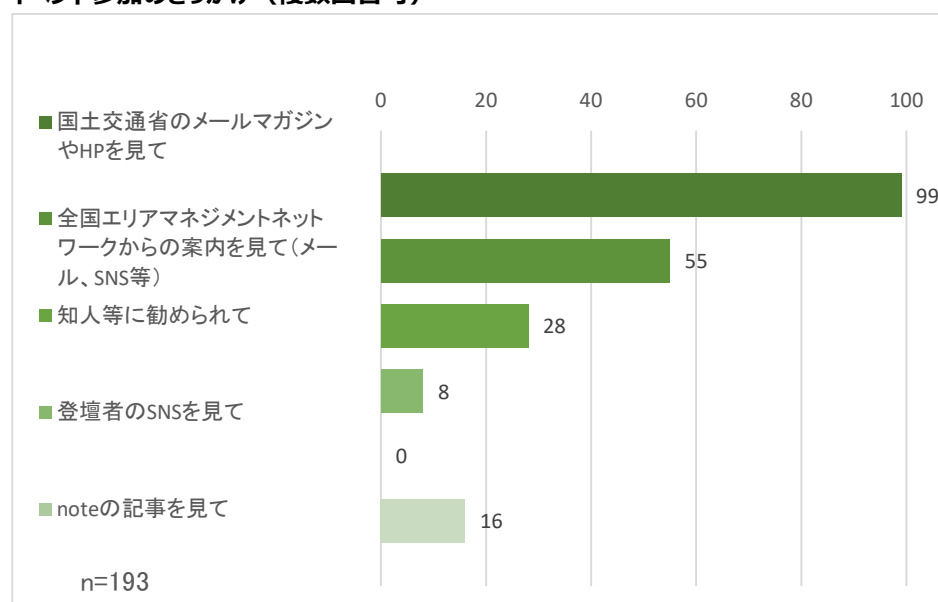


表 4-11 イベント参加のきっかけ（その他の回答）

#	回答
1	自治体から案内(他 1 件)
3	有限責任監査法人トーマツからの案内
4	加盟しているまちづくり協議会からの案内
5	不動産協会からの案内
6	Facebook
7	建築系のメールマガジン

図 4-23 イベント参加の動機（複数回答可）

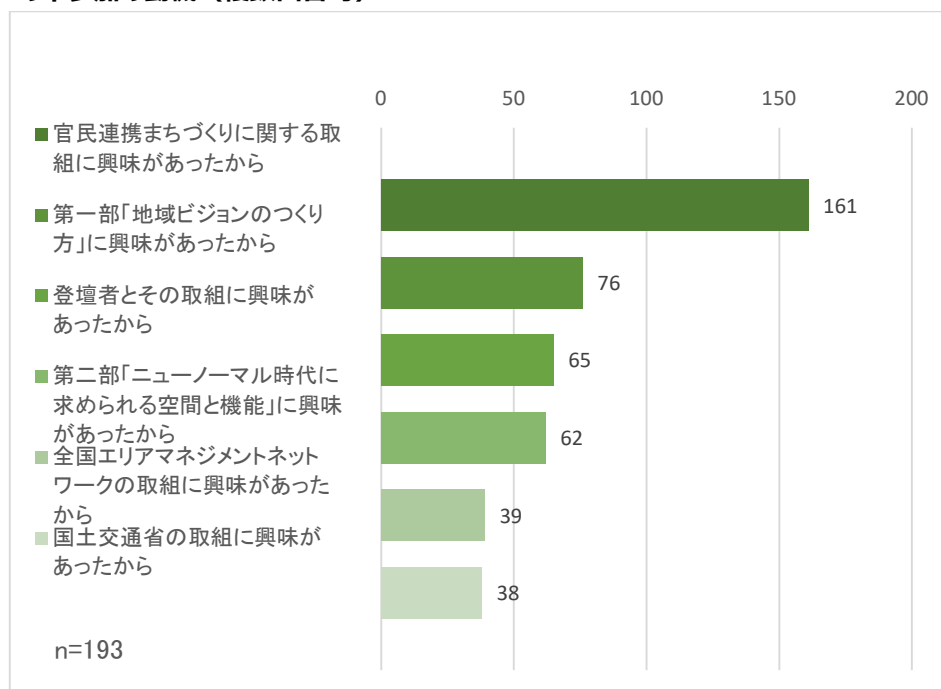


図 4-24 最も面白いと感じたプログラム

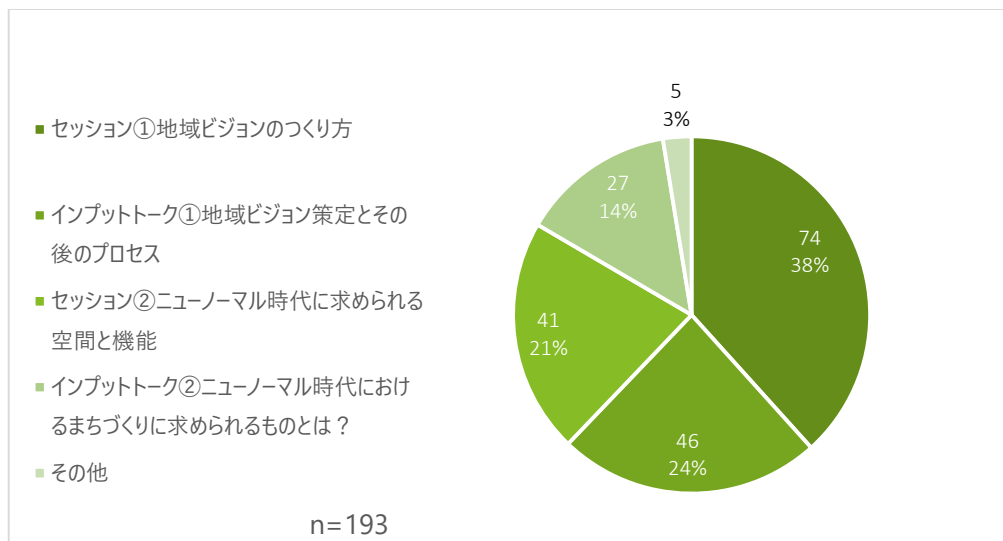


表 4-12 各プログラムを最も面白いと感じた理由(1/3)

プログラム	理由（抜粋）
インプットトーク① 地域ビジョン策定 とその後のプロセ スの感想	実例が良くわかったため。
	その後のプロセスの部分が、今後の自分たちの取り組みについて参考になったため。
	個別の実例をもとにビジョンづくりの重要性を論じて頂いた点。
	特に柏市の事例でエリマネの組織を一般社団法人化されたものが非常に参考になった。
	まさに地域ビジョンの策定に取り組んでいて社内でも様々な意見があるため、具体的なプロセスの考え方を例示等も含めてお話しいただいて大変勉強になった。
	よくまとめられていて参考になった。
	実体験の重みを感じた。
	出口教授のお話は簡潔明瞭で、ビジョン策定の重要性をよく理解することができた。セッションは、登壇者がどのような活動をされているのかを紹介してほしかった。
	地域ビジョン策定後の取り組みとリビジョンについて、ビジョンを持って整えた後に時代のニーズに即して展開していくことが大切で、柔軟に対応していくことが大切だと教えていただいたこと。
	現在、ビジョン策定に向けて事業を進めているため、とても参考になった。
	公・民・学の連携の話に興味があったので、よい機会となった。
	総論としてのエリアマネジメントの考えについて、とても分かりやすく説明いただいたことと、柏の葉について具体的に伝えていただいた。
	出口教授の取組に以前からとても興味があったから。

表 4-12 各プログラムを最も面白いと感じた理由(2/3)

プログラム	理由（抜粋）
セッション① 地域ビジョンのつくり方の感想	クロストークの内容が多様で、進行も適切でわかりやすかった。
	学生の立場としては、一度に複数の実践する立場の方のお話を聞けて大変勉強になった。ビジョン策定に関し、イメージを膨らませるためにも実践ベースでのお話を聞いたことはよかった。
	各地域の取組事例（好事例）を知ることができたため。
	具体的な地域ビジョンが主体・エリア特性に応じて様々な視点がある点。
	実際の現場での取り組みについての話が聞けたから。
	各プログラム間で差はなかったですが、地域課題解決と地域ビジョン、構築に興味があった。
	登壇者それぞれの違いが明確になったため。
	現在取り組んでいる事業に当てはまり、イメージしやすかった。
	エリアマネジメントの役割分担について理解が深まった。
	中心市街地から郊外の各ケースにおける地域ビジョンの策定のプロセスやその難しさなどを聞くことができたため。
	エリアの価値向上が受益となる人たちと当該エリアの利用者が協同したビジョン策定との意味について考えられ、アンケートや観測・評価など、エリマネ組織の必要性も再確認した。
	地域の特性に合わせた、個性のあるビジョン作りのプロセスに関心があったから。
	様々な地域の取り組みを横断的に知ることができ参考になった。
	官のみでは実現可能な地域ビジョンの策定が困難であると考えたため。
	セッションの時間が長く確保しており、登壇者の体験を詳しく聞くことができたから。
	地域ビジョンはまちづくりの核。具体的な作成プロセスや、その位置づけを聞くことができ、非常に有意義。
	それぞれの地域での取組を一堂に聞くことが出来て貴重なセッションであった。
	地域ビジョンを自分で作成したことが無いので地域ビジョンのつくり方を具体的に知ることができた。
	エリアマネジメントの考え方が参考になったため。
	現在、地域・事業者・行政が一体となった、まちづくりビジョンの作成を進行中。

表 4-12 各プログラムを最も面白と感じた理由(3/3)

プログラム	理由（抜粋）
インプットトーク② ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものとは？の感想	コロナ禍により、従来まちづくり、エリマネの目標であった集客、賑わい等が厳しい状況に直面している現状の中でヒントを得るため。
	コロナによる変化によるアンケート調査等からニューノーマル時代における取組が興味深い。
	どれも大変興味深かったが、特に都心部での事例が面白かったため。
	具体的な内容でよかった。
	with コロナでの具体的に貴重なデータが参考になった。また、そのデータを受けたアクションプランが早速ここまで出来上がっていることに驚きを覚えた。
	「場」の再定義的なイベントの事例が興味深かった。
	エリアマネジメントのポイントがよく整理されていてわかりやすかった。
	コロナ禍にあっての人流の動きやまちに関わるワーカーへのアンケート等を行うなど、行動を数的に示したうえで大丸有の考え方を示したことは、説得力があった。
	データに基づいた意思決定、実行、情報発信をされていることに感銘を受けた。
	ニューノーマル時代に求められるまちづくりの進め方が事例を踏まえてわかりやすかった。
	歩道を歩く場所から座ってテレワークをする場所にした試みが興味深く感じた。
セッション② ニューノーマル時代に求められる空間と機能の感想	各地域の課題やこれからの取り組みについて聞いたから。
	新しい取組事例や知見等に興味があったため。
	各実践者の考え方が参考になった。
	今後、公共空間を活用した取り組みは更に求められるため、空間利用や機能の考えを知ることができた。
	まちづくりはどっしりかまえ、ニューノーマルは多様性の1つという日下田さんの考え方に共感した。
	ビジョンづくりはある意味どこでも共通的な部分が大きいと思うが、実際の空間や機能への取組は各々の地域の特性が反映されると期待した。
	関心のある分野の知見を深めることができたため。
	業務に活かせるため。
	実際に実践されている立場からみた、リアルの場の意義を聞いたことが良かった。
	コロナ禍での活動の悩みに共感でき、参考になったため。
	ビジョニングのその先に繋がるボトムアップ型の都市計画への発展、地域の生活者や利用者の意識改革や他の地域への横展開に向けたファシリテーションの可能性や重要性が感じられた。

図 4-25 各プログラム内容の満足度

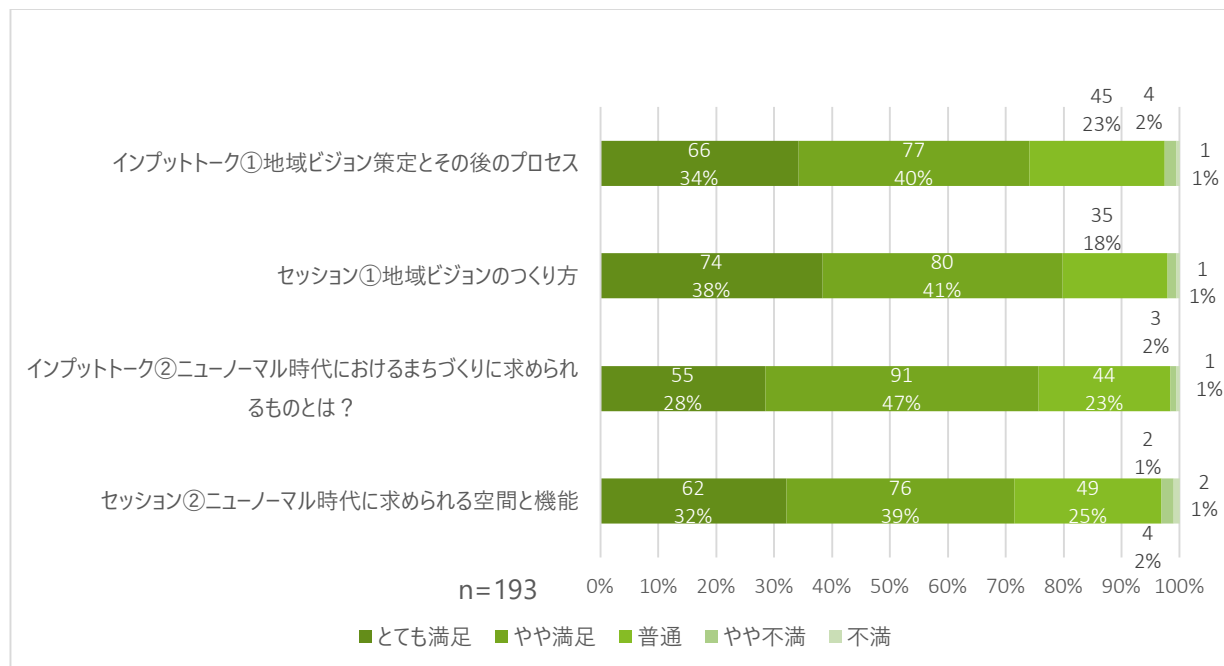


図 4-26 各プログラム所要時間の満足度

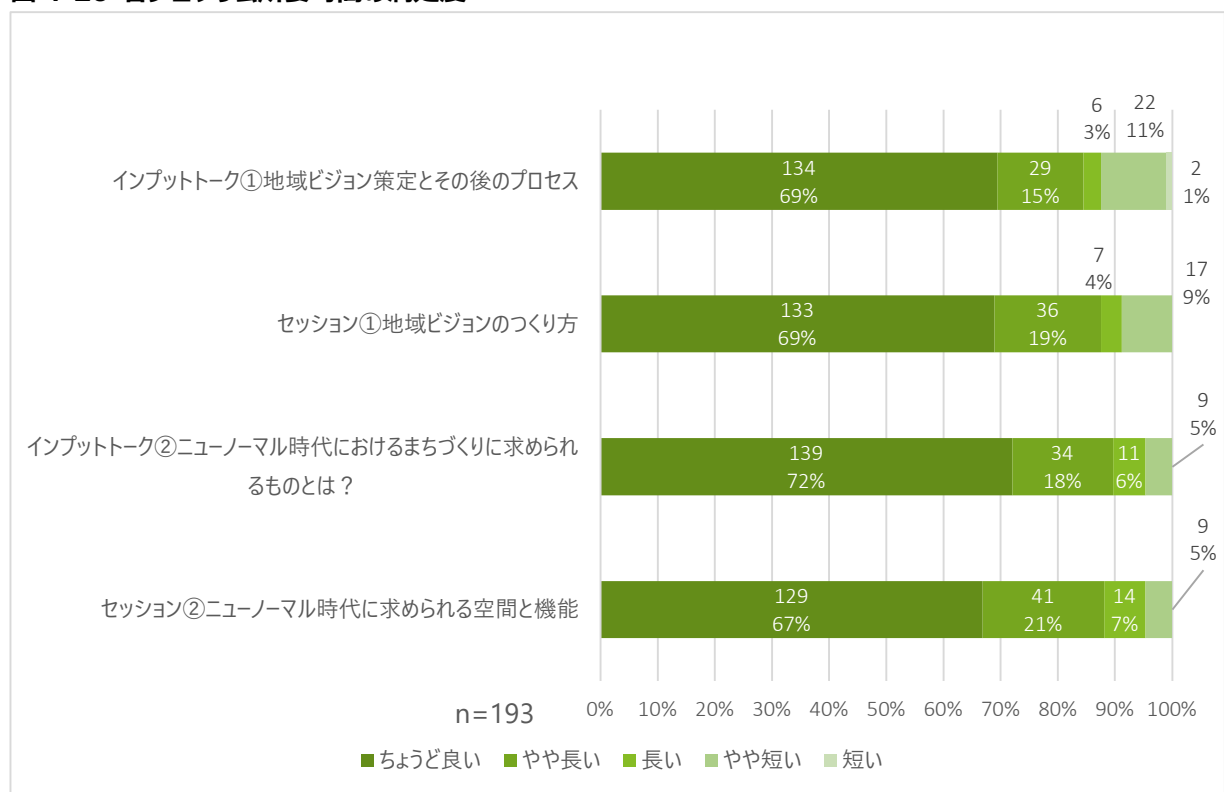


表 4-13 イベント全体に関する意見など

分類	回答（抜粋）
プログラム	各プログラムの長さは良いが、トータルだとオンラインで 3 時間はやや長く感じた。
	有意義なお話が多かったです。その分展開が早くてメモが取り切れなかったのが心残り。
	スライドの数が多くて、話題についていけない講演があった。
	とても勉強になった。講演者の話に対してチャットでの質疑応答の時間があってもよかったかと思った。
	東京をはじめ大都市中心部での取組が主体のため、居住者の関わり方などについては余り聞けなかったは少々残念であった。
	宇野局長の話に大局観を感じた（世界の中での地域、日本の中での地域という立場で地域の発展を願う）。
	出せない部分かもしれないが、収支含む運用コスト面を知りたかった。
	コーディネーターのお話が長く、事例をもっとご紹介いただければと思う。後半は冗長な印象を持った。
	活動をスタートするきっかけや活動の目標・目的について説明を聞きたかった。
運営	相槌がマイクに反映されて不快でした。使わないマイクは適宜切ったほうが良いと思う。また、いきなり音が小さくなったり大きくなったりして調整しにくかった。
	業務をしながら視聴することが多く、途中途切れ途切れでわからない部分がでてくるため、後で録画が見れるとよい。
	本日の資料のダイジェスト版でも良いので頂きたい。
	資料の事前配布があれば良かった。
開催時期	仕事と関連性が深く、興味のある分野だった。先進的な取組事例や国交省の施策の最新情報等を聞けてよかった。開催時期はできれば年度末を外していただけると有難い。
次回開催	大変勉強になりました。ありがとうございます。今後も同様なセミナーがあれば、参加させてほしい。

表 4-14 イベント全体に関する感想

回答（抜粋）
エリマネは個別性が大きいと改めて感じました。
改めてマネジメントしないとにぎわいが創出できないことへの疑問を感じた。（昔（50 年前まで？）は自然にできていたことが、様々な規制でマネジメントしないと公共空間をうまく利用できなくなったことを改めて感じた）。
最後に小林重敬先生が紹介された未来発展指向型のエリマネについて森記念財団主催都市ビジョン講演会がとても気になった。
これまで（おそらく今後も）市が策定した計画をもとにまちづくりを進めているが、市民（地域）の意見を反映することが大切だと感じた。登壇者それぞれの取り組みについて知ることができた。
まちづくりを担う本人からの直接的な意見は、貴重でした。ケースの紹介だけではなく、行政、民間、NPO 独自を理解したセッションは、非常に理解できた。
登壇された皆様は知見があられ、意欲的に取り組む姿勢も素晴らしいと感じ、“我が街にもこのような方々や地域資源があれば…”と思った。まずは車を降りて、まちを歩く習慣をつけて我が街を再発見する意識付けから始めたい。
セッションは色々な考え方や取組等の話が聞け、大変有意義だった。

図 4-27 イベント全体の満足度

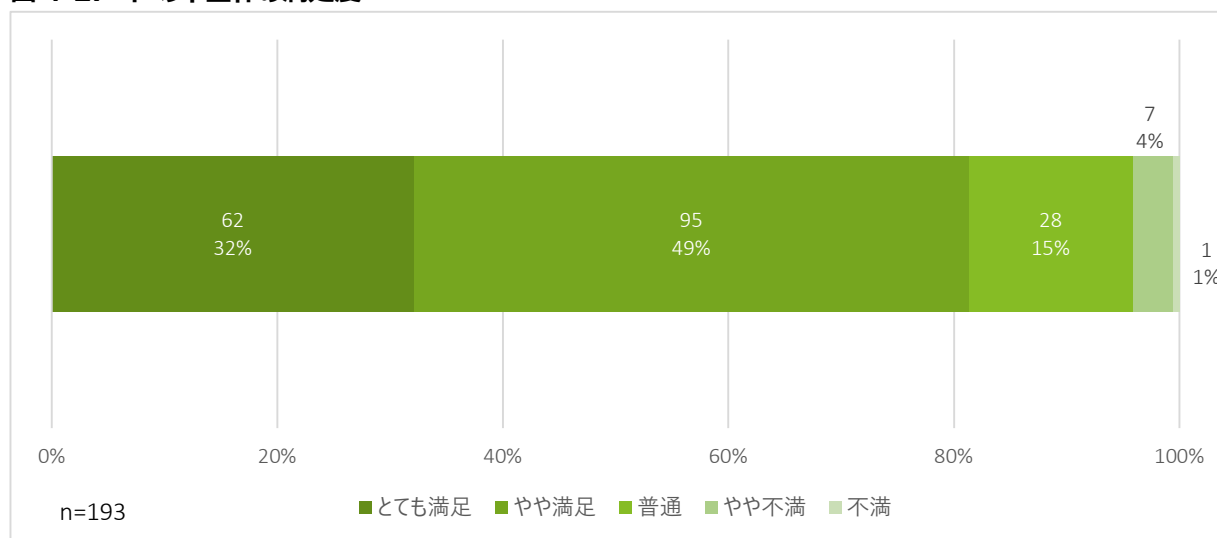


表 4-15 次回開催時に取り扱いを希望するテーマ

分類	理由
エリア マネジメント	大都市と地方都市のエリマネの推進
	エリマネにおける資金調達の方法（他 3 件）
	「郊外商業地におけるエリマネマネジメント事例」など宜しくお願いします。
	開発型エリマネにおけるエリア内外住民のビジョン策定や、エリマネ活動への主体的関与の意味・意義
	コロナ社会に呼応したエリマネマネジメントのあり方
リソース	運営資金について（他 2 件）
	セッションの最後の方で語られたエリマネ活動の財源の話
	住民と企業市民との連携、協力者の見つけ方など（他 1 件）
	地域内経済循環
	人優先のまちづくりで得られる経済効果
	まちづくり協議会等の事務運営や資金など、町おこしをしたい人材へのバトンの渡し方
官民連携	官民連携における建設コンサルタントの役割、ビジネスモデルについて
	官民連携の初動期の取り組み方
	官民連携まちづくりの取組事例の紹介
	官民連携によるウォークアブル事業の取り組み
事例紹介	公共空間の利活用、海外の事例
	BID 取り組み事例
	エリアプラットフォームに関する全国の状況や事例（他 1 件）
	地域との合意形成（参加者からの質問で取り上げられていたテーマ）について深掘りしたもの
	地方都市での小規模な取り組み等
	官と地域住民の思いを調整する具体例
	まちづくりに福祉の視点を入れる取り組み（誰も取りこぼさない仕組み）に挑戦する方やその事例
	各地にある UDC の取り組みと仕組み
	駅前広場におけるえきまち空間づくり
	規制・申請と自己責任について
	タクティカルアーバニズム、スマートシティ
	ほこみち
	例えば高卒や大卒後に個人事業として運営していこうとしたときに、どのような項目に気をつけるべきか、必ずしておくべきことはなにかなど、組織を立ち上げるにあたっての注意点や体験談
	ソトノバとの連携講演
	ちいさな拠点づくり
その他	今後も継続開催して欲しい
	まちづくりに関わる行政向け職員のための講演、意見交換を期待する

表 4-16 回答者の居住地域

都道府県	人数	都道府県	人数
東京都	47	三重県	2
神奈川県	21	奈良県	2
愛知県	19	和歌山県	2
千葉県	12	京都府	2
大阪府	11	岡山県	2
埼玉県	8	山口県	2
兵庫県	8	鹿児島県	2
広島県	8	岩手県	1
福岡県	8	群馬県	1
宮城県	5	石川県	1
北海道	4	福井県	1
栃木県	4	鳥取県	1
茨城県	3	香川県	1
新潟県	3	佐賀県	1
岐阜県	3	大分県	1
山梨県	2	長崎県	1
静岡県	2	沖縄県	1

n=193

図 4-28 回答者の職業

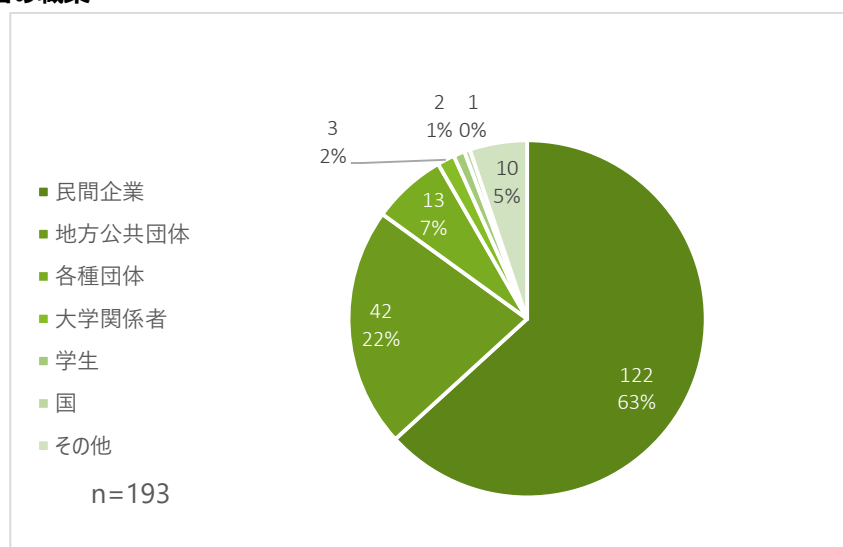


図 4-29 回答者の専門分野

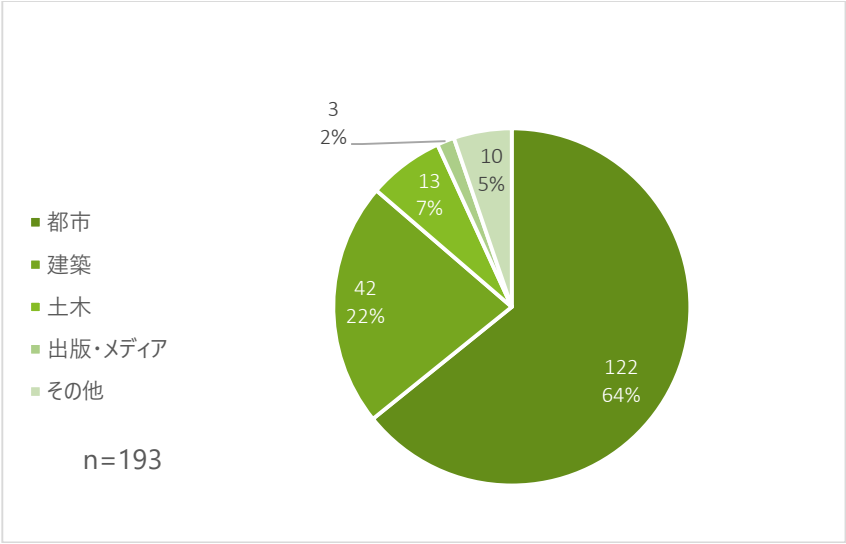


図 4-30 回答者の年代層

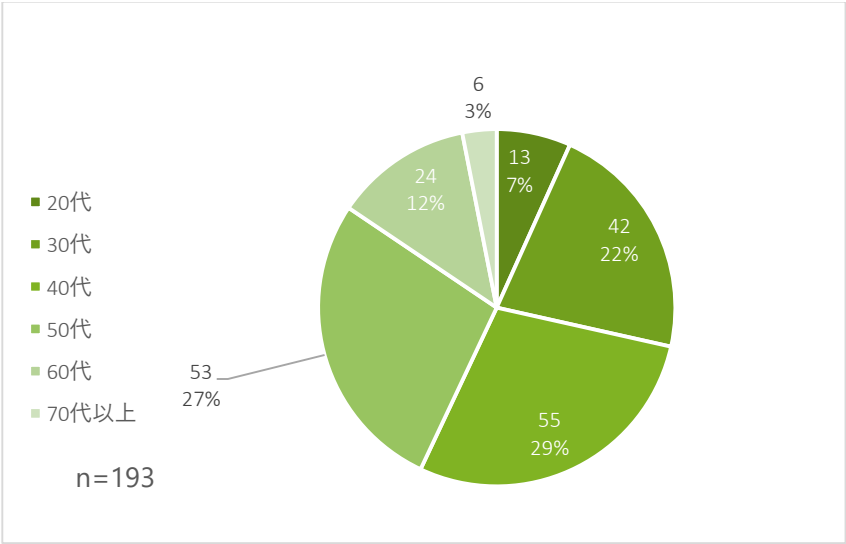
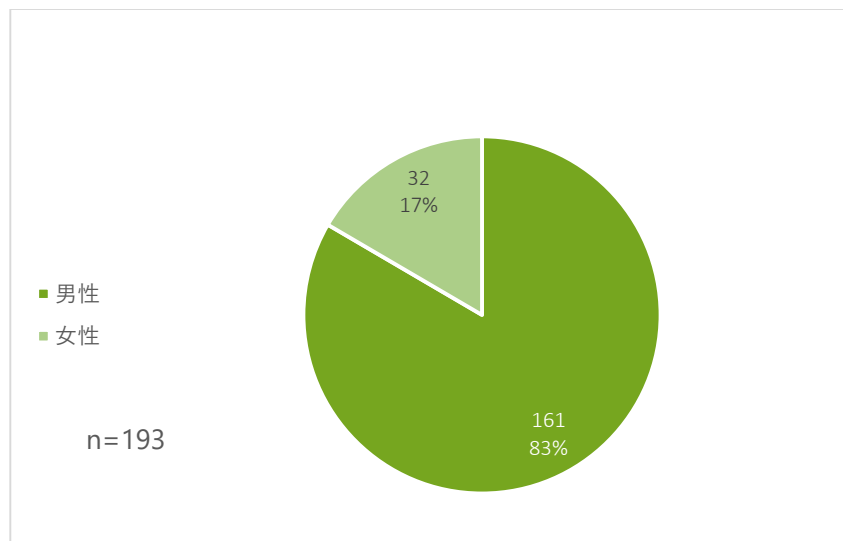


図 4-31 回答者の性別



4-3-3 イベント後の情報発信

レポートなどのイベント後の情報発信は、開催告知で使用した note のアカウントにて記事投稿を行った。また、イベントの主なプログラムについては、官民連携プラットフォームの YouTube チャンネルへ編集の上、投稿を行い、同 note 上にて紹介を行った。投稿に際しては、参加申込者へメール配信を行い、周知を図った。投稿内容の詳細は以下のとおり。

表 4-17 イベント後の note 投稿記事及び配信動画一覧

#	内容	公開日	URL	掲載画面
1	note イベントレポート及び YouTube 告知記事	令和 4 年 3 月 15 日(火)	https://note.com/kanmin_mac/hi/n/n9b0f3c9e1b11	図 4-32
2	YouTube 動画 インプットトーク① 東京大学大学院 出口氏	令和 4 年 3 月 15 日(火)	https://youtu.be/k3P0BTb0N6o	図 4-33
3	YouTube 動画 インプットトーク② 大丸有 / 三菱地所 重松氏	令和 4 年 3 月 15 日(火)	https://youtu.be/qoZX9lk8_-Y	図 4-34
4	YouTube 動画 セッション① 各登壇者 5 名	令和 4 年 3 月 15 日(火)	https://youtu.be/Dvu3ulwTdP4	図 4-35
5	YouTube 動画 セッション② 各登壇者 5 名	令和 4 年 3 月 15 日(火)	https://youtu.be/_5GycTesK68	図 4-36

図 4-32 イベントレポート及び YouTube 告知 note 記事

「レポート」官民連携まちづくり DAY2022～ニューノーマル時代のまちづ くりとビジョニング～



官民連携まちづくりDAY 2022事務局
2022年3月15日 12:09



こんにちは！官民連携まちづくりDAY 2022事務局です。

先日は、国土交通省と全国エリアマネジメントネットワークが開催したイ
ベント「官民連携まちづくりDAY2022～ニューノーマル時代のまちづくりとビ
ジョニング～」（概要は[リンク参照](#)）へ、多くの方にご参加いただきまして
誠にありがとうございました。1,000名を超えるお申込みをいただき、オンラ
インながらも、皆さまと一緒にイベントを盛り上げられたのではないかと思
っております！ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

また、実施後アンケートでは「当日参加できなかった。詳細を知りたい」や
「有意義だった！職場の仲間に内容を共有したい」などの嬉しいお問合せを
いただいておりますので、本記事では下記の内容をご紹介します。

①各プログラムのレポート（本記事）

②Youtube動画掲載のお知らせ

では、早速各プログラムを振り返りましょう！

1-1：地域ビジョンの策定とその後のプロセス（出 口教授）

第1部

14:00

オープニングトーク
インプットトーク①
**地域ビジョン策定と
その後のプロセス**（事前収録）

15:00

セッション①
地域ビジョンのつくり方
栗松氏とまちづくりの実践者の
皆さんと一緒に進みます。



東京大学大学院新領域創成科学研究科
出口 教授

東京大学工学部都市工学科卒業、東京大学大学院工学系研究
科博士課程修了（工学博士）。専門分野は都市計画学、都市デザ
イン学。東京大学や九州大学を経て2011年より現職。公益社
団法人日本都市計画学会会長、柏の葉アーバンデザインセン
ターセンター長、柏の葉スマートシティコンソーシアム統括コー
ディネーター、（一社）UDC-イニシアチブ代表理事等を務める。

東京大学大学院で都市計画学や都市デザイン学を専門に研究されている、出
口教授にご講演（事前収録）をいただきました！

ご自身が手掛けられた事例（福岡、柏など）を元に、ご経験に基づいた大変貴重な示唆をいただいております。地域ビジョンの策定に限定しない、その後の取組や、時代や地域を取り巻く環境の変化に応じた柔軟さなど、非常に興味深い考え方をお示しいただいております。

ご登壇時の動画は[コチラ](#)からご覧ください。



官民連携 まちづくりDAY2022 地域ビジョン策定とその後のプロセス

1. 広域景観計画における地域ビジョンと景観計画
ー福岡県筑後地方における景観憲章から広域景観計画へー
2. エリマネの地域ビジョンとガイドライン
2-1 福岡市天神地区「We Love 天神協議会」のガイドライン
2-2 福岡市博多駅地区「博多まちづくり推進協議会」のガイドライン
3. アーバンデザインセンターを中心とした地域ビジョンと公共空間整備
ー柏市柏の葉地区の公共空間整備の戦略ー
4. 官民連携まちづくりの両輪としての「地域ビジョン」と「組織」

東京大学大学院新領域創成科学研究科
研究科長・教授 出口 敦

公民連携まちづくりの「地域ビジョン」に関わる課題

- 1) 地域ビジョンのつくり方とつくり上げるプロセスの意味
 - ・住民・事業者が参加の端緒に就くプロセス
 - ・異なる主体ごとの将来ベクトルを束ねる調整のプロセス
- 2) 地域ビジョンの法制度上の位置づけ
 - ・法定の計画（都市再生整備計画）などに位置づける意味
 - ・法制度上の位置づけを持たせるか、あるいは如何にしてオーソライズさせるか
- 3) 地域ビジョンの戦略的活用
 - ・組織内部の方向転換の拠所
- 4) 地域ビジョンの実現に向けた進捗チェック・取組評価
 - ・PDCAサイクルの導入。取組・事業の評価の拠所
- 5) リビジョン（更新）のサイクル
 - ・骨格を維持しつつ、社会経済の変化に対応したリビジョン

出口教授投影資料（抜粋）

また、事前に投稿しました、Youtube限定公開のご講演は[コチラ](#)からご覧ください！

1-2：地域ビジョンのつくり方（トークセッション）



1-1に引き続き、全国の実践者を代表し、ハートビートプランの園田さんによるファシリテーションのもと、錦二丁目エリアマネジメントの名畑さん、カミハチキテルの山中さん、前橋デザインコミッションの日下田さん、そして、後にご講演をいただいた、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会/三菱地所の重松さんによる、トークセッションを行いました。

事前に皆さまから募集したご質問をもとに設定したテーマにて、地域ごとに特性や考え方などが異なる中、各地域の様々な視点から「地域ビジョン」を考えました。

アンケートでも大変好評なセッションでしたので、ぜひ[コチラ](#)からご覧ください！





登壇者5名の様子



カミハチキテル 山中さん / 前橋デザインコミッション 日下田さん

2-1：ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものとは？（重松さん）

第2部 インプットトーク② 16:00 セッション① 17:00 クロージングトーク	ニューノーマル時代におけるまちづくりに求められるものとは？ 重松氏とまちづくりの実践者の皆さんと一緒に行います。 総括タイム 創設された制度活用に関する情報発信	〔一社〕大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 都市政策部会長 兼 スマートシティ推進委員会委員長 三菱地所(株) 都市計画企画部 兼 スマートエネルギーデザイン部 ユニットリーダー 重松 真理子氏 都市開発制度、エリアマネジメント等、公民協調による取組を推進。近年、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会(リガーレ)事務局として丸の内仲通り等における道路空間活用に関わったほか、エリア内のイノベーションエコシステムの形成促進に向けた取組の立上、スマートシティの推進に取り組んでいる。
--	---	--

（一社）大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会や三菱地所（株）にて、まちづくりやスマートシティ事業に取り組まれている、重松さんにご講演いただきました。

コロナ禍による変化を冷静にとらえ、ご自身が手掛ける大手町・丸の内・有楽町地区の事例や、海外の事例などにも触れながら、「ニューノーマル時代」のまちづくりのヒントを得られるようなご講演をいただきました！

ご登壇時の動画は[コチラ](#)からご覧ください。

官民連携まちづくりDAY 2022 オンラインイベント...

まちづくりDAY 2022

インプットトーク①

ニューノーマル時代のまちづくりに求められるもの

(一社)大丸有まちづくり協議会 都市政策部会長 兼 スマートシティ推進委員会委員長
三菱地所(株) 都市計画企画部 兼 スマートエネルギーデザイン部 ユニットリーダー
重松 眞理子 様

見る YouTube

国土交通省 X 大丸有

ポスト・コロナ時代のまちづくりの方向性

東京・丸の内エリアを『就業者28万人が毎日6時間×週5日過ごす場』から、
『多様な就業者100万人が最適な時間集まり、交流して価値を生み出す舞台』へ。

【with/post コロナ】大丸有5つの取組み

1. プレキシブルなワークスタイル
フレキシブルなワークスタイルを実現する施設・サービスの提供
→ 多様な働き方に対応し、働きやすさを高める
2. 人々や企業が交流することで生まれるイノベーション
価値創造を徹底的に促める
→ ここでは様々な機会・空間・人脈、オンラインも活用し、交流を促す
3. プライベートも見守らせGOVの向上
働くだけでなく、プライベートの時間も見守り、さらに生活の質を向上させる
4. 公共空間もワークプレイス
都市の公共空間をワークプレイスとして活用する
5. 安心・安全な Well-being
安心・安全な Well-being (健康・生活・教育) を、高品質なサービス・環境を通じて実現する

大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、三菱地所 重松さん / 投影資料 (抜粋)

2-2：ニューノーマル時代に求められる空間と機能 (トークセッション)

2-1に引き続き、「ニューノーマル時代に求められる空間と機能」というテーマについて、同じく事前に皆さまから募集したご質問をもとに設定したテーマにてトークセッションを行いました。

同じ時代でまちづくりに取り組んでいる仲間として、皆さんが共通して抱える課題や悩みについて「どう考えているのか」、「何をしてきたか」、また、「これからのまちづくりには何が必要なのか」など、各地域での実践者として率直な意見交換や考え方の共有をいただきました。

ご登壇時の動画は[こちら](#)からご覧ください。



ハートビートプラン 園田さん / 錦二丁目エリアマネジメント 名畑さん

情報共有：ウォーカブルを支援する事業の紹介 (国土交通省より)

国土交通省よりウォーカブルを支援する下記の3事業について紹介しました。

・官民連携まちなか再生推進事業

・まちなかウォークアブル推進事業

・「エリア価値向上整備事業（令和4年度創設）」

各事業の詳細については以下の資料よりご確認ください！

【note掲載】国土交通省_制度紹介資料.pdf



1.1 MB

ファイルダウンロードについて

ダウンロード

参考：官民連携まちづくりポータルサイト 制度の紹介

官民連携まちづくりポータルサイト

本サイトでは、官民連携まちづくりを進める上で役立つ制度の紹介や、まちづくりの最新イベントなどの情報を発信

www.mlit.go.jp



「官民連携まちづくりポータルサイト【YouTube動画】」では、今年度（2022）の本イベントの動画の他、昨年度（2021）や、一昨年度（2020）などの動画も掲載しております。ぜひそちらもご覧いただき、皆さまの地域のまちづくり活動のヒントにいただければ幸いです。

この度はイベントへのたくさんのご参加をいただき、誠にありがとうございました！

※記事中の「【note 掲載】国土交通省_制度紹介資料.pdf」は、p4-73 に掲載した講演資料を添付した。

図 4-33 YouTube 動画 インプットトーク①の表示画面



図 4-34 YouTube 動画 インプットトーク②の表示画面



図 4-35 YouTube 動画 セッション①の表示画面



図 4-36 YouTube 動画 セッション②の表示画面

